

令和 2 年度静岡県多文化共生基礎調査
(外国人調査)

外国人調査の経年比較に関する注意事項

1. 2009年調査（平成21年度静岡県多文化共生アンケート調査）

2009年の外国人調査は10,000部送付した。そのうち未達分の1,295部（未達率13.0%）を差し引いた8,705部（a）を配布数とする。回収数は2,185部（b）であり、回収率（b/a）は25.1%であった。回収数2,185部のうち無効ケース6部を差し引いた2,179部が有効回答数であった。2009年調査の報告書では回収数の2,185部を母数として比率を集計していたが、今回の比較では有効回答数の2,179部を母数とする比率で示している。

2. 2016年調査（平成28年度静岡県多文化共生に関する基礎調査）

2016年の外国人調査は5,000部送付した。そのうち未達分の122部（未達率2.4%）を差し引いた4,878部（a）を配布数とする。回収数は1,197部（b）であり、回収率（b/a）は24.5%であった。回収数1,197部のうち無効ケース4部を差し引いた1,193部が有効回答数であった。2016年調査の結果に関する以下の数値は、有効回答数1,193部を母数とする比率で示している。

3. 2020年調査（令和2年度 静岡県多文化共生基礎調査）

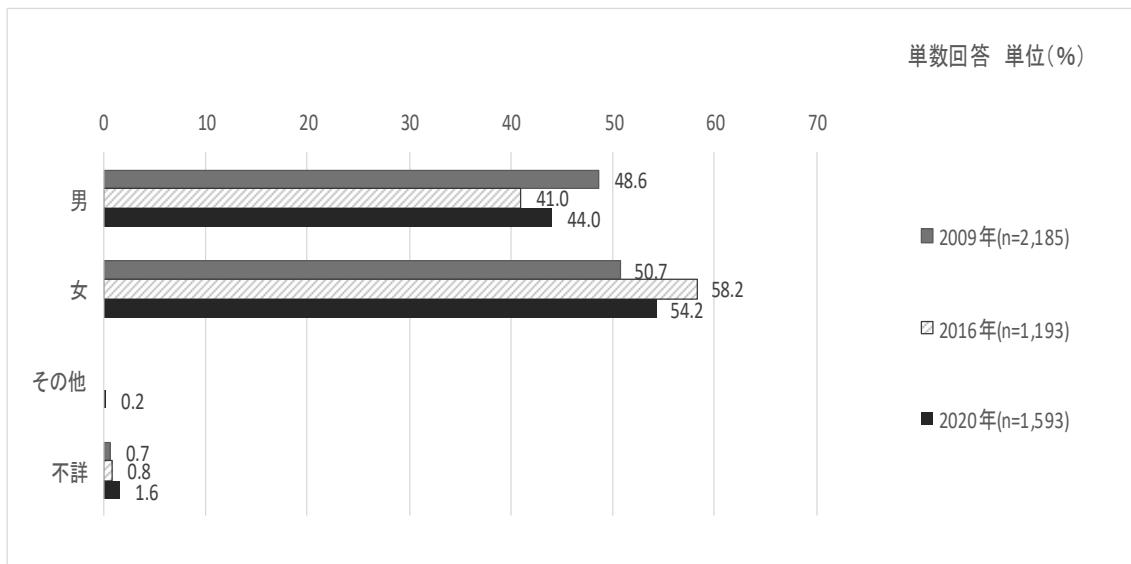
2020年の外国人調査は4,000部（a）送付した。オンライン回収は462部、郵送回収は1,165部で、計1,627部（b）回収された。回収率（b/a）は40.7%であった。そのうちオンラインと郵送との重複回答による無効ケースが34部あったため、最終的な有効回答数は1,593部（c）で、回収率（c/a）は39.8%であった。2020年調査の結果に関する以下の数値は、有効回答数1,593部を母数とする比率で示している。

以下では2020年調査の外国人調査の結果を報告するが、2009年調査、2016年調査と比較が可能な項目については、比率を比較している。ただし、3つの調査で必ずしも選択肢が同じではない設問もある。本文では原則として比率を比較する図のみを提示しているが、選択肢が多く図では煩雑になる場合は表を示す。

さらにいくつかの設問（具体的には問17、問23）では回答者を16-29歳、30-39歳、40-49歳、50歳以上の4つの年代に区分して年代別に比率を比較している。

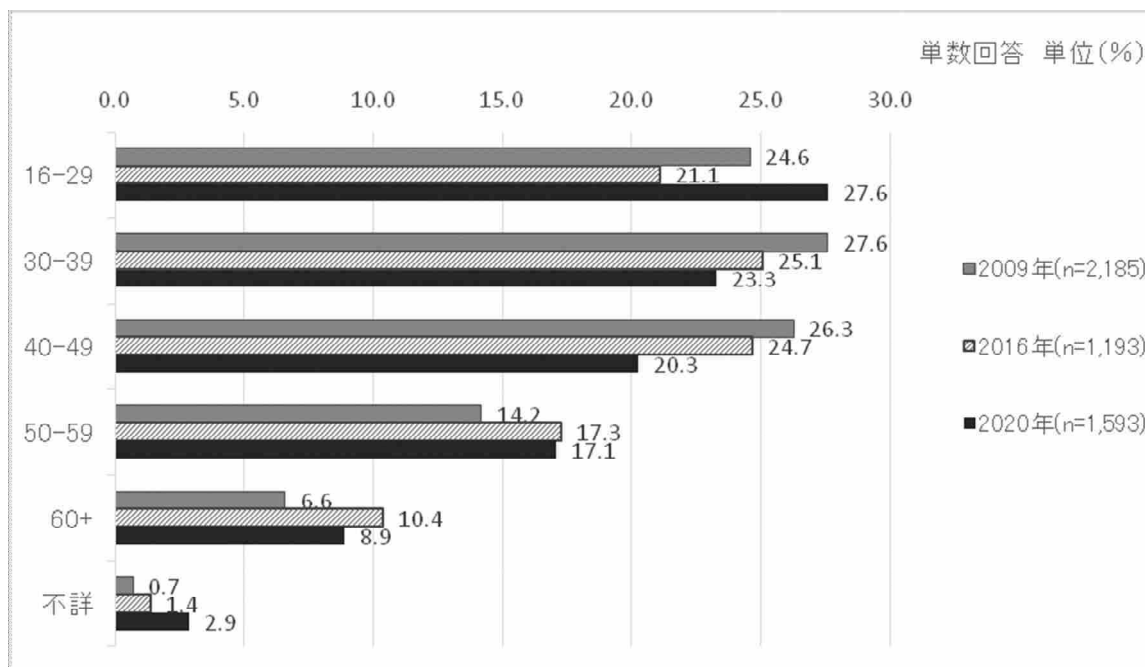
問1 あなたの性別（あなたの今の認識にもっとも近い性別）を教えてください。

（単数回答）



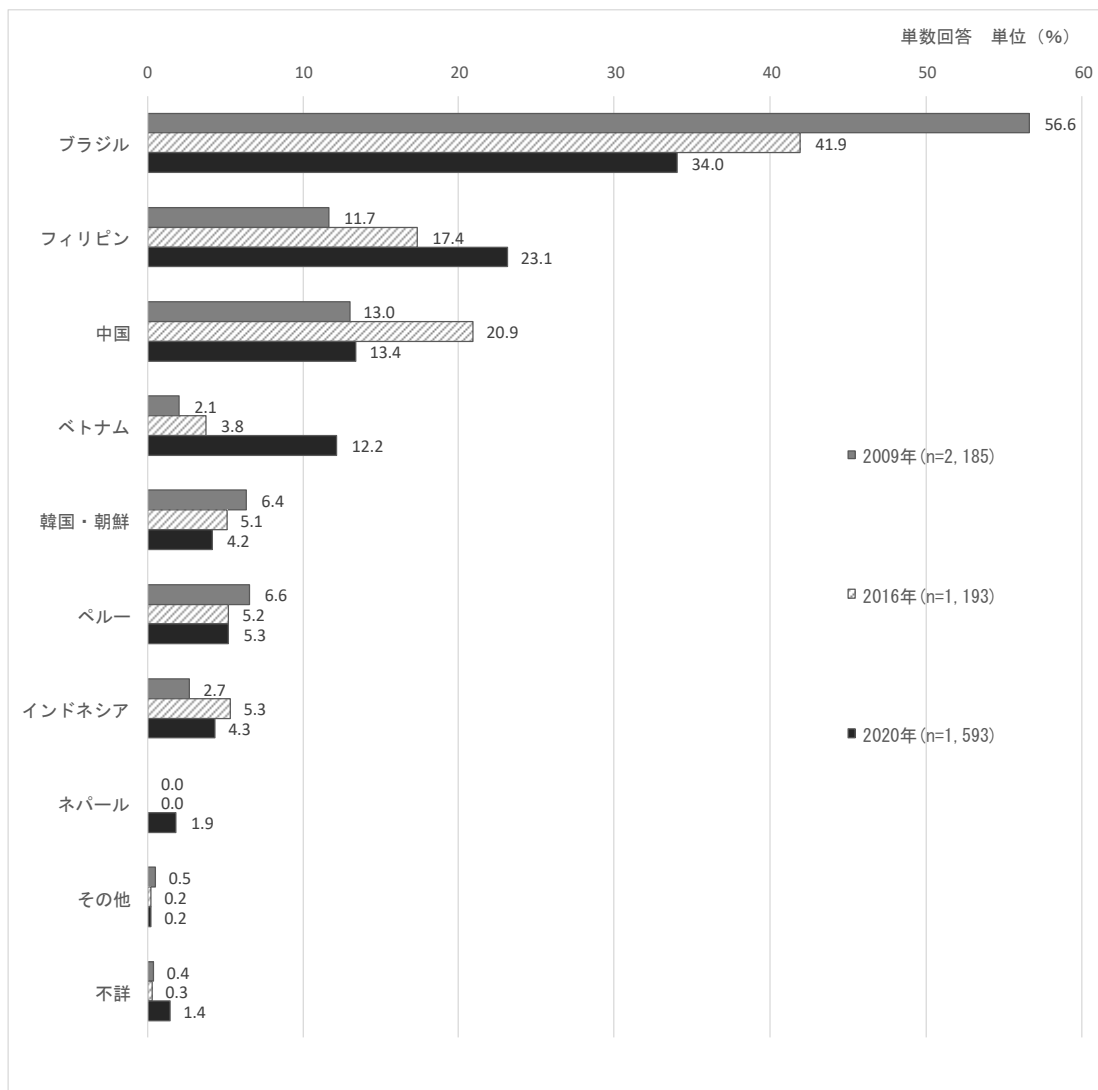
2020年調査では、女性が54.2%、男性が44.0%であった。

問2 あなたの年齢を教えてください。（単数回答）



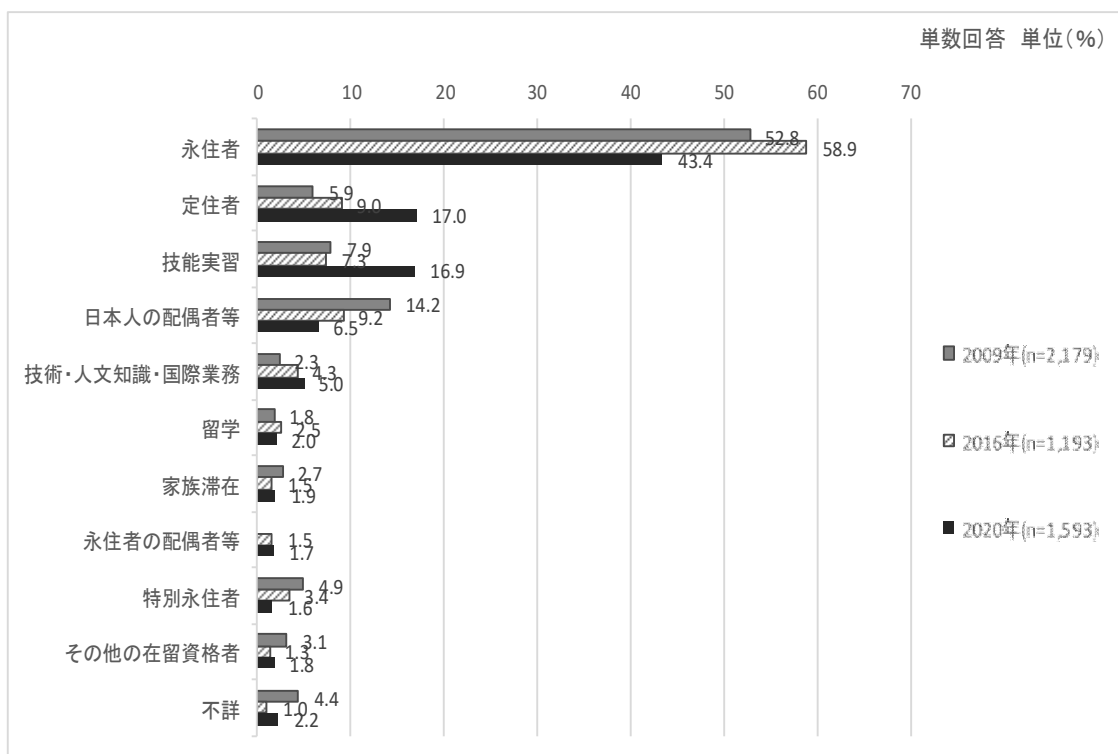
2020年調査では、「16-29歳」が最も多く27.6%、次いで30代が23.3%、40代が20.3%であった。

問3 あなたの国籍を教えてください。(単数回答)



2020年調査では、ブラジルが34.0%で最も多く、次いでフィリピンが23.1%、中国が13.4%であった。

問4 あなたの在留資格を教えてください。(単数回答)

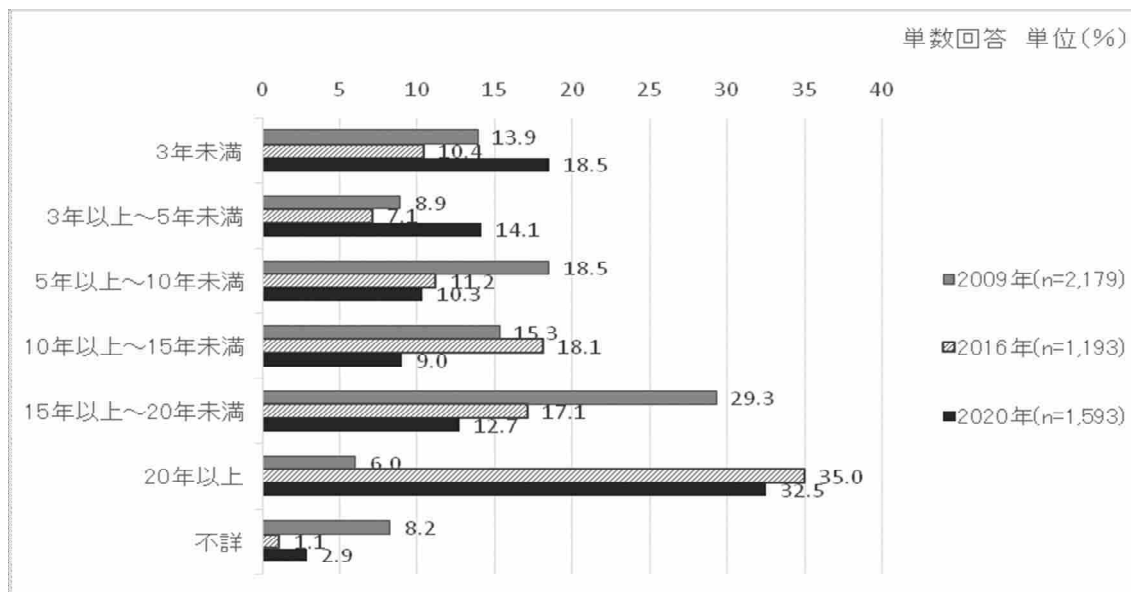


2020年調査では、「永住者」が43.4%で最も多く、次いで「定住者」が17.0%、「技能実習」が16.9%であった。回答者のうち、就労と居住に制限のない身分資格（特別永住者を含む永住者、定住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等）の合計は70.2%であった。

○2020年調査における国籍と在留資格との関係

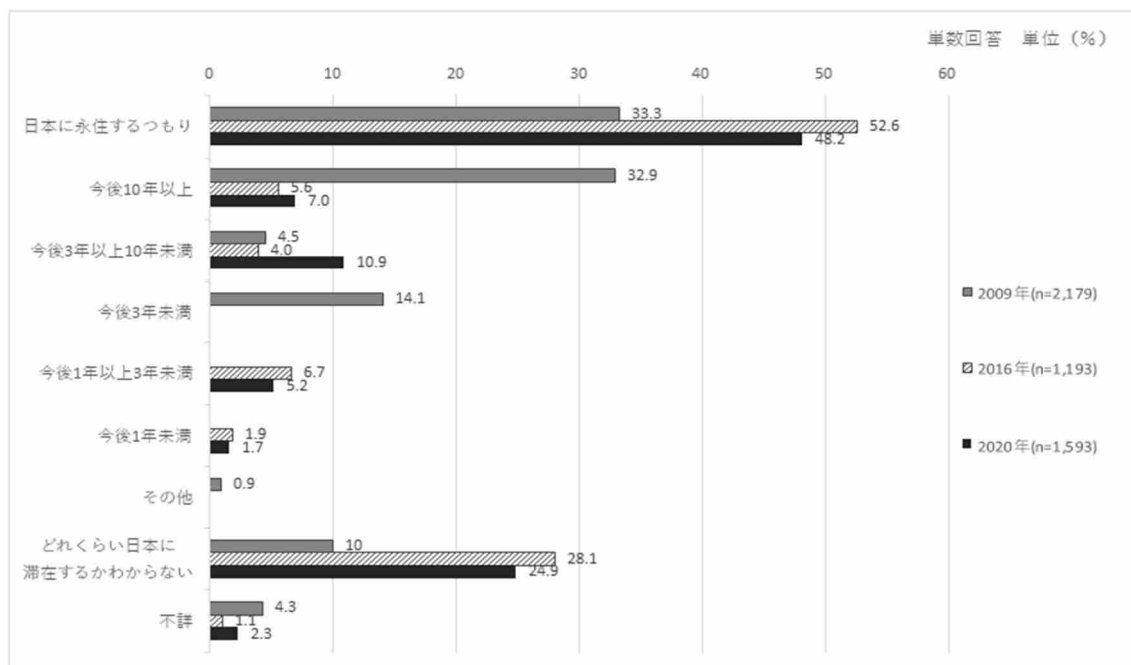
	単数回答 単位(%)											実数(人)
	永住者	定住者	技能実習	日本人の配偶者等	技術・人文知識・国際業務	留学	家族滞在	永住者の配偶者等	特別永住者	その他の在留資格	不詳	
ブラジル	62.2	29.2	0.0	4.4	0.4	0.0	1.7	0.4	0.0	0.7	1.1	542
フィリピン	39.1	22.8	19.0	10.9	1.4	0.0	0.3	3.5	0.3	1.6	1.1	368
中国	47.4	3.3	20.2	11.3	6.1	2.8	3.3	2.8	0.0	2.3	0.5	213
ベトナム	5.2	1.0	58.2	3.6	17.0	7.2	4.1	1.0	0.0	2.6	0.0	194
韓国または朝鮮	40.3	3.0	0.0	9.0	10.4	0.0	0.0	1.5	34.3	0.0	1.5	67
ペルー	76.2	16.7	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	1.2	1.2	84
インドネシア	8.7	2.9	60.9	0.0	8.7	11.6	1.4	1.4	0.0	4.3	0.0	69
ネパール	3.3	0.0	3.3	3.3	43.3	13.3	13.3	0.0	0.0	16.7	3.3	30
二重国籍	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
不詳	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	91.3	23
実数(人)	692	271	269	104	79	32	30	27	25	29	35	1,593

問5 日本での通算滞在年数を教えてください。(単数回答)



2020年調査では、「20年以上」が32.5%と最も多く、次いで「3年未満」が18.5%、「3年以上5年未満」が14.1%であった。

問6 今後どのくらいの期間、日本で生活する予定ですか。(単数回答)



*2009年の選択肢「できるだけ長く日本に滞在し、いずれは帰国する予定」、「母国と日本以外の国に行く予定」はそれぞれ「今後10年以上」、「その他」に読み替えた。

2020年調査では、「永住するつもり」が48.2%で最も多く、次いで「どれくらい日本に滞在するかわからない」が24.9%であった。

○2020年調査における今後の滞在予定年数と国籍との関係

単数回答 単位 (%)

	ブラジル	フィリピン	中国	ベトナム	韓国または朝鮮	ペルー	インドネシア	ネパール	二重国籍	不詳	全体
日本に永住するつもり	49.3	45.7	62.9	21.6	88.1	82.1	17.4	46.7	0.0	8.7	48.1
今後10年以上	5.2	9.0	8.0	8.2	1.5	2.4	14.5	13.3	0.0	0.0	7.0
今後3年以上10年未満	5.5	6.5	4.2	40.7	4.5	1.2	34.8	6.7	33.3	0.0	10.9
今後1年以上3年未満	2.6	3.8	8.9	12.4	0.0	1.2	14.5	3.3	0.0	0.0	5.2
今後1年未満	0.6	0.5	4.2	2.1	1.5	0.0	11.6	0.0	0.0	0.0	1.7
どれくらい日本に滞在するかわからない	35.4	33.2	11.7	14.9	4.5	11.9	5.8	26.7	66.7	4.3	24.9
不詳	1.5	1.4	0.0	0.0	0.0	1.2	1.4	3.3	0.0	87.0	2.3
実数 (人)	542	368	213	194	67	84	69	30	3	23	1,593

国籍別に見ると、ブラジルとフィリピンは類似しており、「日本に永住するつもり」がそれぞれ49.3%、45.7%で最も多く、次いで「どれくらい日本に滞在するかわからない」がそれぞれ35.4%、33.2%であった。

韓国または朝鮮とペルーは「日本に永住するつもり」がそれぞれ88.1%、82.1%で最も多く、80%を超えている。中国も「日本に永住するつもり」が62.9%で最も多い。

ベトナムとインドネシアは「今後3年以上10年未満」がそれぞれ40.7%、34.8%で最も多い。

○2020年調査における今後の滞在予定年数と在留資格との関係

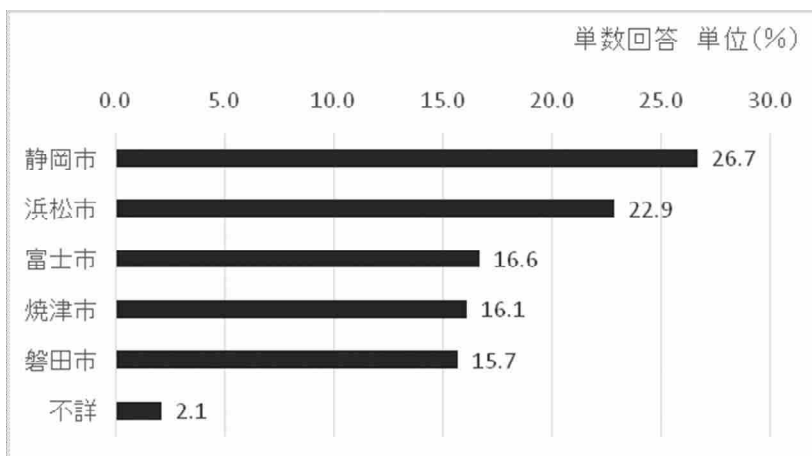
単数回答 単位 (%)

	永住者	定住者	技能実習	日本人の配偶者等	技術・人文知識・国際業務	留学	家族滞在	永住者の配偶者等	特別永住者	その他	不詳	全体
日本に永住するつもり	67.5	35.4	6.3	73.1	32.9	25.0	56.7	51.9	96.0	55.2	17.1	48.1
今後10年以上	4.5	7.7	7.4	6.7	21.5	28.1	10.0	11.1	0.0	0.0	0.0	7.0
今後3年以上10年未満	1.7	8.5	37.5	2.9	21.5	25.0	13.3	0.0	0.0	17.2	0.0	10.9
今後1年以上3年未満	0.4	3.0	22.7	2.9	3.8	6.3	0.0	3.7	0.0	3.4	2.9	5.2
今後1年未満	0.1	0.7	7.8	0.0	2.5	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	1.7
どれくらい日本に滞在するかわからない	24.7	43.9	17.5	12.5	16.5	15.6	20.0	25.9	4.0	20.7	22.9	24.9
不詳	1.0	0.7	0.7	1.9	1.3	0.0	0.0	3.7	0.0	3.4	57.1	2.3
実数 (人)	692	271	269	104	79	32	30	27	25	29	35	1,593

永住者、日本人の配偶者等、技術・人文知識・国際業務、家族滞在、永住者の配偶者等、特別永住者は、「日本に永住するつもり」が最も多く、それぞれ67.5%、73.1%、32.9%、56.7%、51.9%、96.0%であった。

定住者は「どれくらい日本に滞在するかわからない」が43.9%で最も多く、技能実習は「今後3年以上10年未満」が37.5%で最も多く、留学は「今後10年以上」が28.1%で最も多かった。

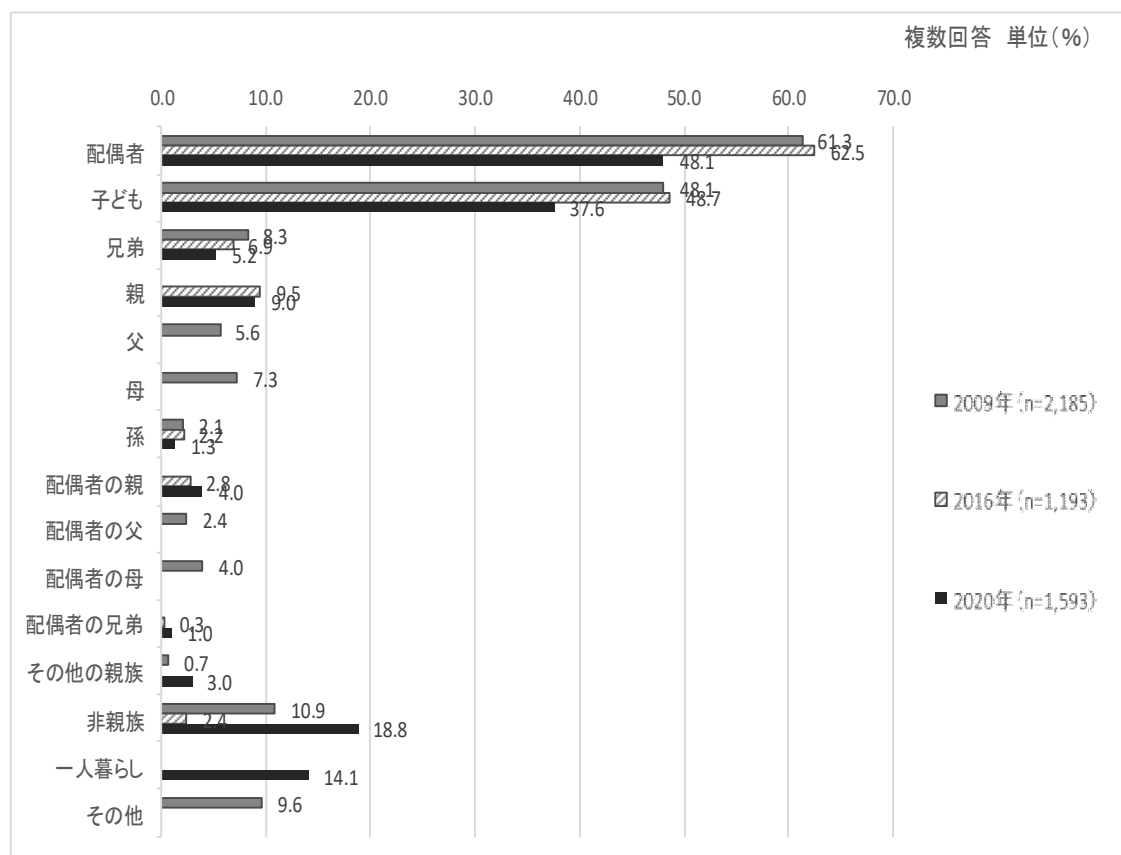
問7 あなたが居住する市を教えてください。(単数回答)



* n=1,593。

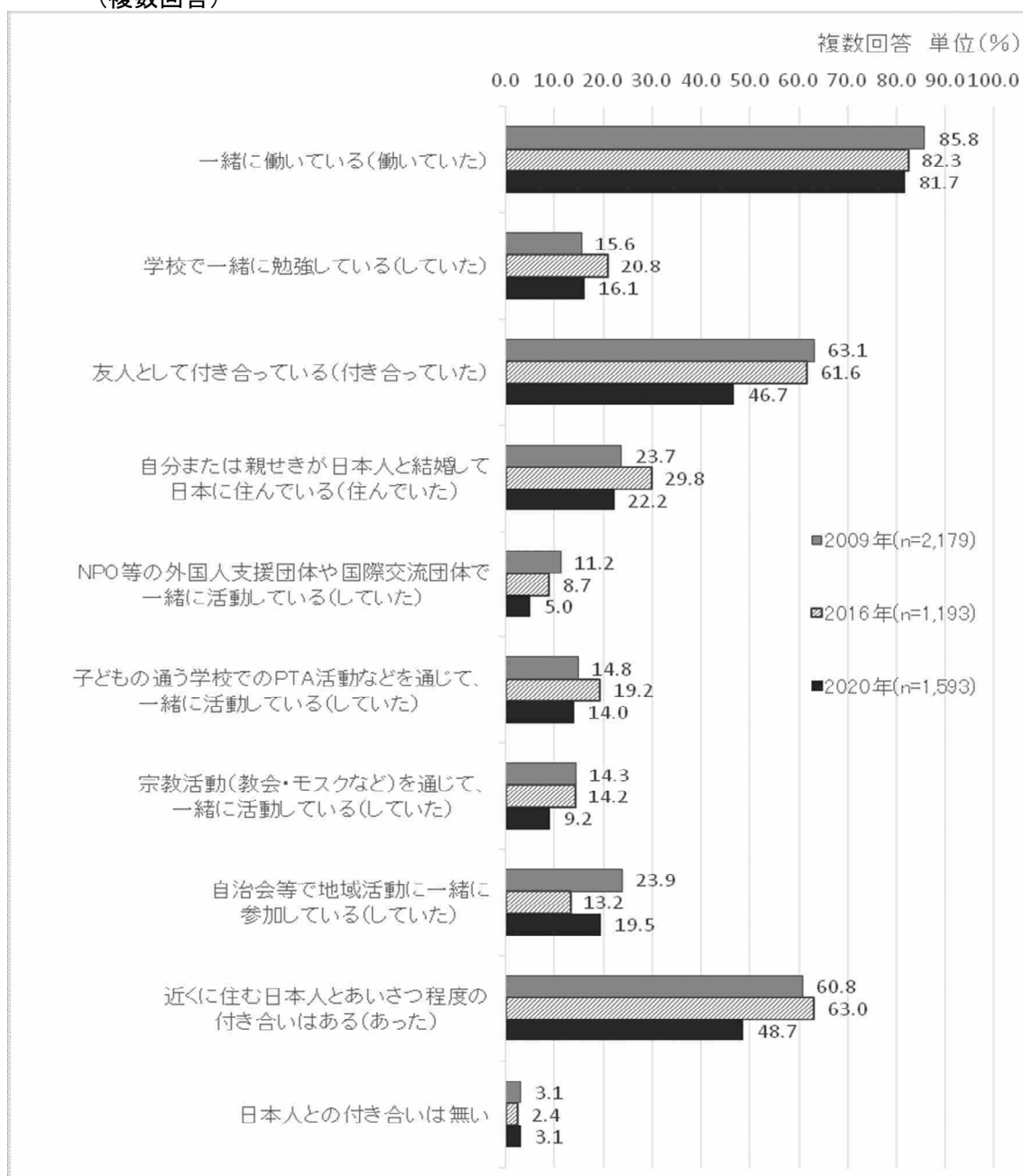
静岡市が26.7%で最も多く、次いで浜松市が22.9%、富士市が16.6%であった。

問8 一緒に住んでいる人たちについて教えてください。(複数回答)



2020年調査では、配偶者が48.1%で最も多く、次いで子どもが37.6%、非親族が18.8%であった。

問9 あなたは日本人と以下のような付き合いがありますか。(過去の経験を含む)
(複数回答)

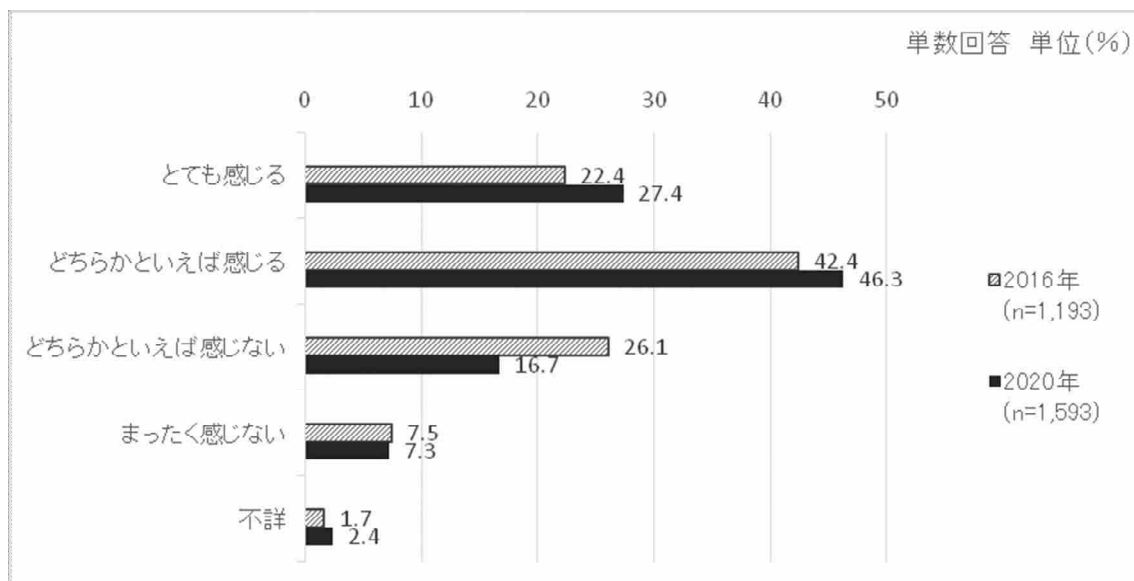


* 2020年調査では、設問の文言を一部変更した。

2020年調査では、「一緒に働いている」が81.7%で最も多く、次いで「近くに住む日本人とあいさつ程度の付き合いはある」が48.7%、「友人として付き合っている」が46.7%であった。

「友人として付き合っている」と「近くに住む日本人とあいさつ程度の付き合いはある」は、2009年調査と2016年調査ではいずれも60%台だったが、2020年調査では、それぞれ46.7%、48.7%に低下した。

問 10 地域で暮らす日本人について、どの程度親しみを感じますか。(単数回答)



2020年調査では、「どちらかといえば感じる」が46.3%で最も多く、次いで「とても感じる」が27.4%であった。

○2020年調査における日本人への親しみと国籍との関係

単数回答 単位(%)

	ブラジル	フィリピン	中国	ベトナム	韓国または朝鮮	ペルー	インドネシア	ネパール	二重国籍	不詳	全体
とても感じる	24.4	25.8	29.1	32.0	55.2	27.4	8.7	56.7	0.0	8.7	27.4
どちらかといえば感じる	36.7	47.3	62.4	54.1	34.3	57.1	63.8	23.3	100.0	4.3	46.3
どちらかといえば感じない	26.9	16.6	5.2	9.8	9.0	9.5	17.4	10.0	0.0	0.0	16.7
まったく感じない	11.1	9.0	1.4	3.1	0.0	4.8	10.1	10.0	0.0	0.0	7.3
不詳	0.9	1.4	1.9	1.0	1.5	1.2	0.0	0.0	0.0	87.0	2.4
実数(人)	542	368	213	194	67	84	69	30	3	23	1,593

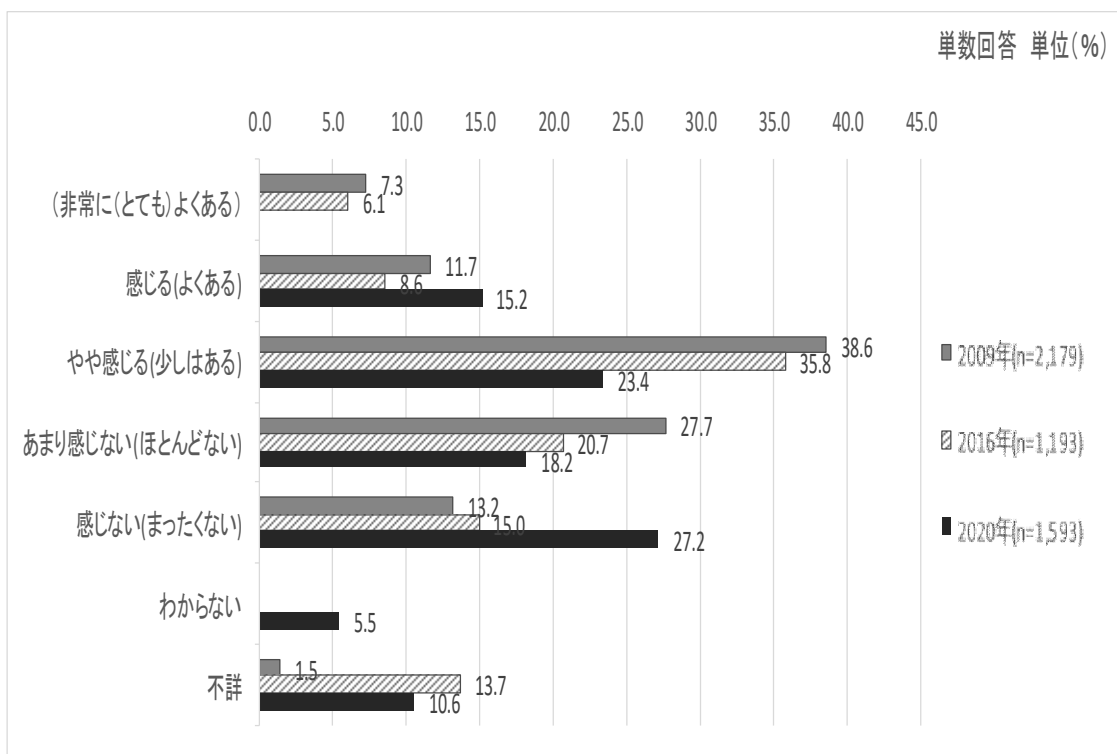
「とても感じる」又は「どちらかといえば感じる」と回答した者を「感じる」とすると、「感じる」の割合は中国が91.5%で最も多く、次いで韓国または朝鮮が89.5%、ペルーが84.5%であった。「感じる」の割合が最も低かったのは、ブラジルが61.1%であった。

○2020年調査における日本人への親しみと在留資格との関係

	単数回答 単位 (%)											
	永住者	定住者	技能実習	日本人の配偶者等	技術・人文知識・国際業務	留学	家族滞在	永住者の配偶者等	特別永住者	その他	不詳	全体
とても感じる	31.9	17.0	22.7	26.9	26.6	18.8	26.7	29.6	80.0	44.8	11.4	27.4
どちらかといえば感じる	46.1	36.2	60.2	52.9	49.4	46.9	50.0	33.3	20.0	44.8	20.0	46.3
どちらかといえば感じない	13.9	31.4	12.3	12.5	19.0	15.6	20.0	37.0	0.0	3.4	5.7	16.7
まったく感じない	6.8	13.7	4.5	6.7	5.1	15.6	3.3	0.0	0.0	6.9	2.9	7.3
不詳	1.3	1.8	0.4	1.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	2.4
実数(人)	692	271	269	104	79	32	30	27	25	29	35	1,593

「感じる」の割合は「技能実習」が82.9%で最も多く、次いで「日本人の配偶者等」が79.8%、「永住者」が78.0%であった。

問11 あなたは、日本人から差別されていると感じることがありますか。(単数回答)



* 2020年調査では、設問の文言を一部変更した。

2020年調査では、「感じる」と「やや感じる」の合計が38.6%、「感じない」と「あまり感じない」の合計が45.4%であった。

○2020 年調査における被差別感覚と国籍との関係

単数回答 単位 (%)

	ブラジル	フィリピン	中国	ベトナム	韓国または朝鮮	ペルー	インドネシア	ネパール	二重国籍	不詳	全体
感じる	26.9	8.7	6.6	14.4	14.9	6.0	5.8	3.3	0.0	8.7	15.2
やや感じる	24.9	22.6	16.9	26.8	22.4	29.8	23.2	33.3	33.3	0.0	23.4
あまり感じない	14.4	17.4	29.1	13.9	25.4	27.4	15.9	26.7	0.0	0.0	18.2
感じない	26.2	31.5	32.4	21.6	19.4	22.6	37.7	13.3	66.7	0.0	27.2
わからない	4.2	5.7	3.3	11.3	7.5	4.8	4.3	6.7	0.0	0.0	5.5
不詳	3.3	14.1	11.7	11.9	10.4	9.5	13.0	16.7	0.0	91.3	10.5
実数 (人)	542	368	213	194	67	84	69	30	3	23	1,593

「感じる」と「やや感じる」の合計は、ブラジルが51.8%で最も多く、次いでベトナムが41.2%、韓国または朝鮮が37.3%であった。

「感じない」と「あまり感じない」の合計は、中国が61.5%で最も多く、次いでインドネシアが53.6%、ペルーが50.0%であった。

○2020 年調査における被差別感覚と在留資格との関係

単数回答 単位 (%)

	永住者	定住者	技能実習	日本人の配偶者等	技術・人文知識・国際業務	留学	家族滞在	永住者の配偶者等	特別永住者	その他	不詳	全体
感じる	17.3	22.9	9.7	7.7	10.1	18.8	16.7	0.0	16.0	10.3	0.0	15.2
やや感じる	25.3	24.4	16.4	20.2	32.9	43.8	26.7	22.2	20.0	13.8	11.4	23.4
あまり感じない	16.9	17.0	20.1	26.9	17.7	3.1	30.0	22.2	20.0	27.6	5.7	18.2
感じない	27.0	25.8	29.7	27.9	26.6	21.9	20.0	44.4	36.0	27.6	11.4	27.2
わからない	5.1	3.0	10.4	4.8	2.5	9.4	0.0	0.0	8.0	10.3	2.9	5.5
不詳	8.4	7.0	13.8	12.5	10.1	3.1	6.7	11.1	0.0	10.3	68.6	10.5
実数 (人)	692	271	269	104	79	32	30	27	25	29	35	1,593

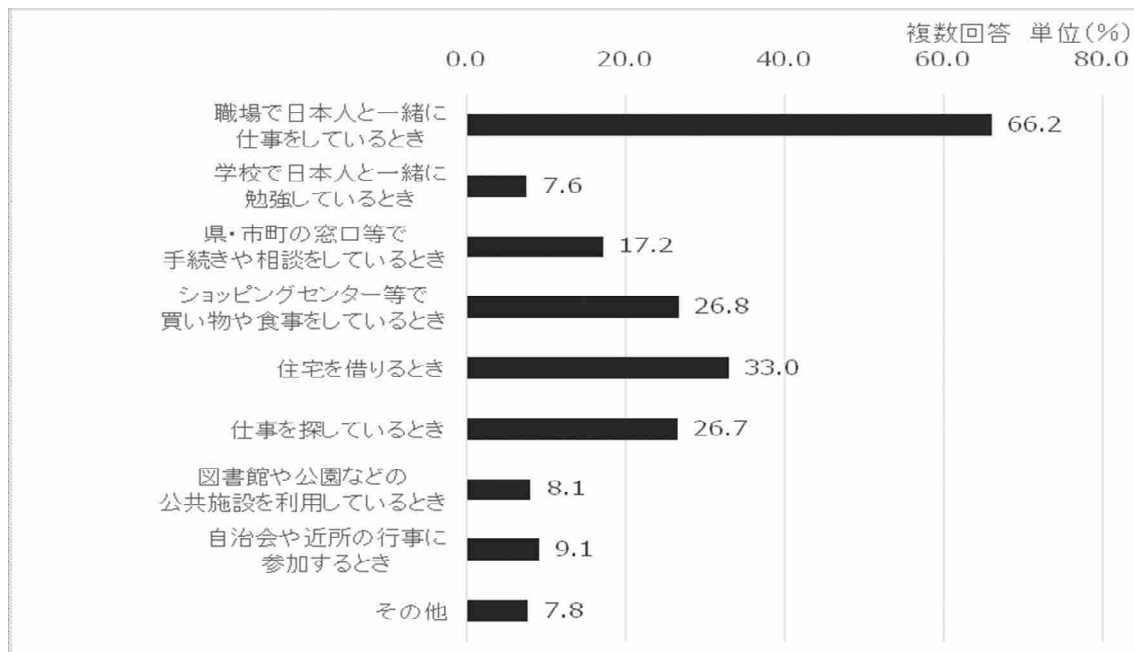
「感じる」と「やや感じる」の合計は、留学が62.6%で最も多く、次いで定住者が47.3%、家族滞在が43.4%であった。

「感じない」と「あまり感じない」の合計は、「永住者の配偶者等」が66.6%で最も多く、次いで「特別永住者」が56.0%、「日本人の配偶者等」が54.8%であった。

問11-2 問11で、「1 感じる」、「2 やや感じる」と答えた方にお伺いします。

あなたは、どんなときに、日本人から差別されていると感じますか。

(過去の経験を含む、複数回答)



* n=1,593。

「職場で日本人と一緒に仕事をしているとき」が66.2%で最も多く、次いで「住宅を借りるとき」が33.0%、「ショッピングセンター等で買い物や食事をしているとき」が26.8%であった。

○2020年調査における国籍と差別を感じる時との関係

	ブラジル	フィリピン	中国	ベトナム	韓国または朝鮮	バレー	インドネシア	ネパール	二重国籍	不詳	全体
職場で日本人と一緒に仕事をしているとき	63.2	62.3	60.0	77.7	37.5	55.3	51.7	63.5	0.0	40.0	62.5
学校で日本人と一緒に勉強しているとき	9.7	1.2	2.7	6.8	15.6	13.2	3.4	0.0	0.0	0.0	6.7
県・市町の窓口等で手続きや相談をしているとき	18.4	14.4	10.7	5.8	31.3	34.3	3.4	18.8	100.0	20.0	15.9
ショッピングセンター等で買い物や食事をしているとき	31.4	24.0	14.7	19.4	6.3	23.7	10.3	6.3	0.0	20.0	23.7
住宅を借りるとき	42.1	12.0	22.7	12.6	59.4	28.9	27.6	50.0	0.0	0.0	29.0
仕事を探しているとき	27.8	18.6	25.3	6.8	50.0	23.7	17.2	62.5	0.0	20.0	23.7
図書館や公園などの公共施設を利用しているとき	10.0	6.0	4.0	3.9	3.1	10.5	10.3	12.5	0.0	0.0	7.5
自治会や近所の行事に参加するとき	9.7	9.6	6.7	1.0	12.5	18.4	0.0	6.3	0.0	0.0	8.2
その他	10.0	9.6	4.0	4.9	12.5	10.5	6.9	0.0	0.0	0.0	8.4
実数(人)	299	167	75	103	32	38	29	16	1	5	765

「職場で日本人と一緒に仕事をしているとき」に差別を感じるのは、ベトナムが77.7%で最も多く、次いでネパールが63.5%、ブラジルが63.2%であった。

「住宅を借りるとき」に差別を感じるのは、韓国または朝鮮が59.4%で最も多く、次いで、ネパールが50.0%、ブラジルが42.1%であった。

○2020年調査における差別を感じる時と在留資格との関係

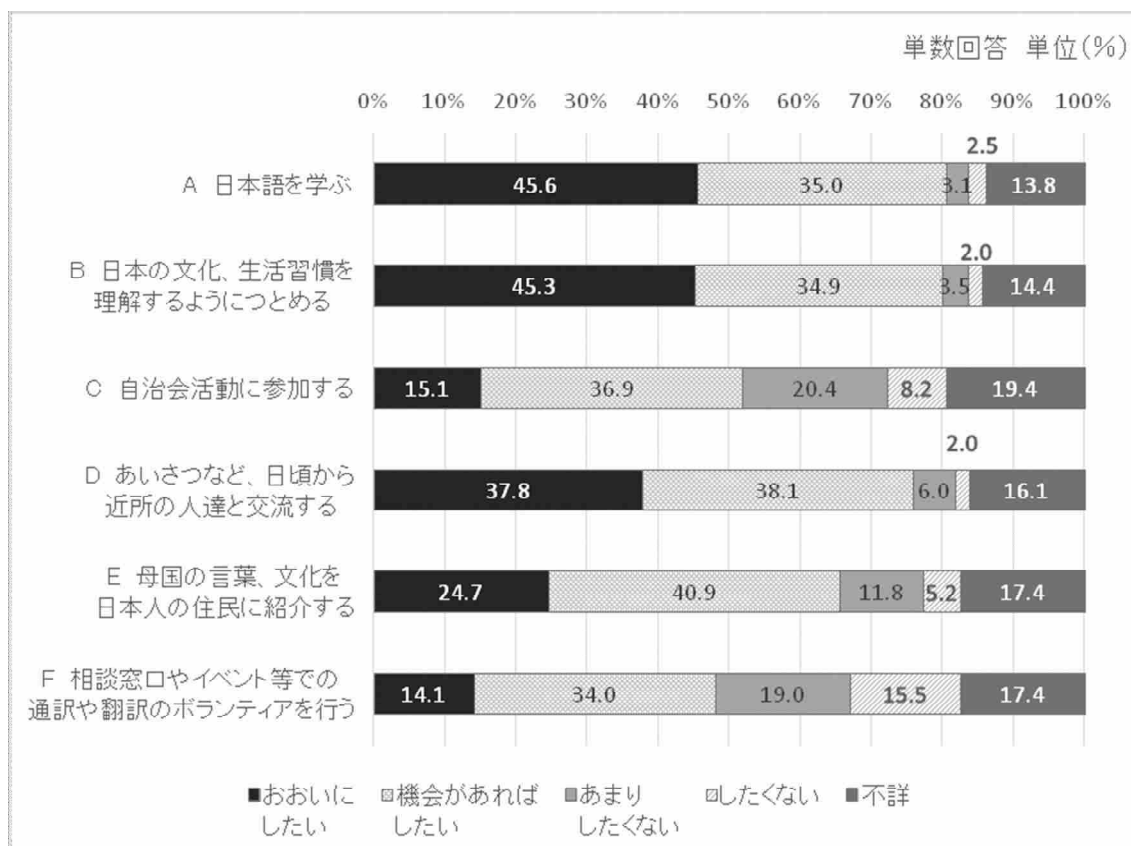
複数回答 単位 (%)

	永住者	定住者	技能実習	日本人の 配偶者等	技術・ 人文知識・ 国際業務	留学	家族滞在	永住者の 配偶者等	特別 永住者	その他	不詳	全体
職場で日本人と一緒に仕事をしているとき	58.4	65.3	76.6	61.9	76.2	61.9	60.0	55.6	11.1	40.0	40.0	62.5
学校で日本人と一緒に勉強しているとき	8.2	6.1	0.9	7.1	2.4	23.8	6.7	0.0	22.2	0.0	0.0	6.7
県・市町の窓口等で手続きや相談をしているとき	20.4	16.3	2.8	11.9	9.5	14.3	20.0	33.3	44.4	0.0	10.0	15.9
ショッピングセンター等で買い物や食事をしているとき	24.1	32.0	14.0	23.8	23.8	23.8	26.7	11.1	0.0	30.0	10.0	23.7
住宅を借りるとき	36.8	32.0	0.9	21.4	35.7	47.6	6.7	22.2	44.4	10.0	20.0	29.0
仕事を探しているとき	29.7	27.2	0.0	21.4	19.0	33.3	13.3	22.2	44.4	20.0	20.0	23.7
図書館や公園などの公共施設を利用しているとき	6.5	12.9	4.7	7.1	4.8	4.8	0.0	11.1	0.0	20.0	10.0	7.5
自治会や近所の行事に参加するとき	12.5	8.2	0.9	7.1	2.4	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	10.0	8.2
その他	8.5	13.6	4.7	2.4	2.4	0.0	6.7	33.3	11.1	10.0	10.0	8.4
実数 (人)	353	147	107	42	42	21	15	9	9	10	10	765

「職場で日本人と一緒に仕事をしているとき」に差別を感じるのは、技能実習が76.6%で最も多く、次いで、技術・人文知識・国際業務が76.2%、定住者が65.3%であった。

「住宅を借りるとき」に差別を感じるのは、留学が47.6%で最も多く、次いで、特別永住者が44.4%、永住者が36.8%であった。

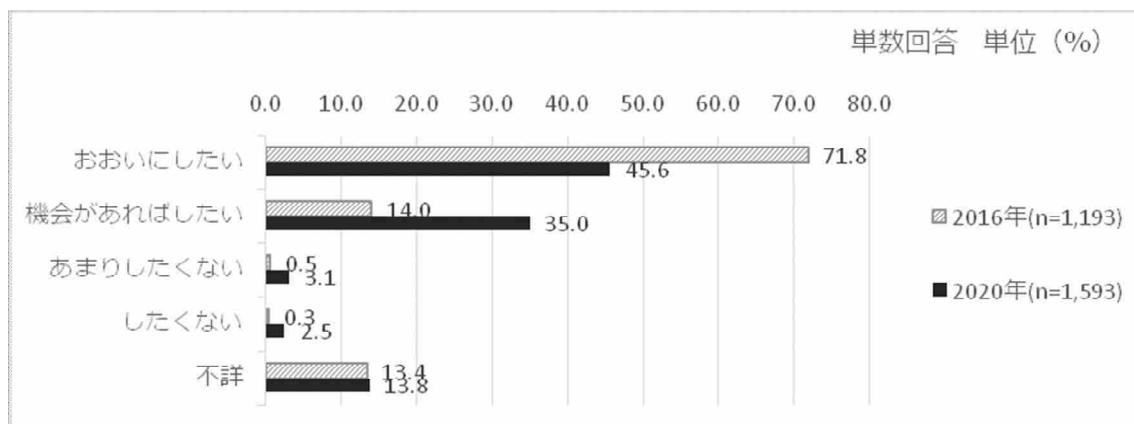
問 12 外国人住民と日本住民との相互理解を深めるために、あなたは以下のことをどの程度
 したいと思いますか。A～Fのそれぞれについて教えてください。(単数回答)



「おおいにしたい」と回答したのは、「A日本語を学ぶ」が45.6%で最も多く、次いで「B日本の文化、生活習慣を理解するようにつとめる」が45.3%、「Dあいさつなど、日頃から近所の人達と交流する」が37.8%であった。

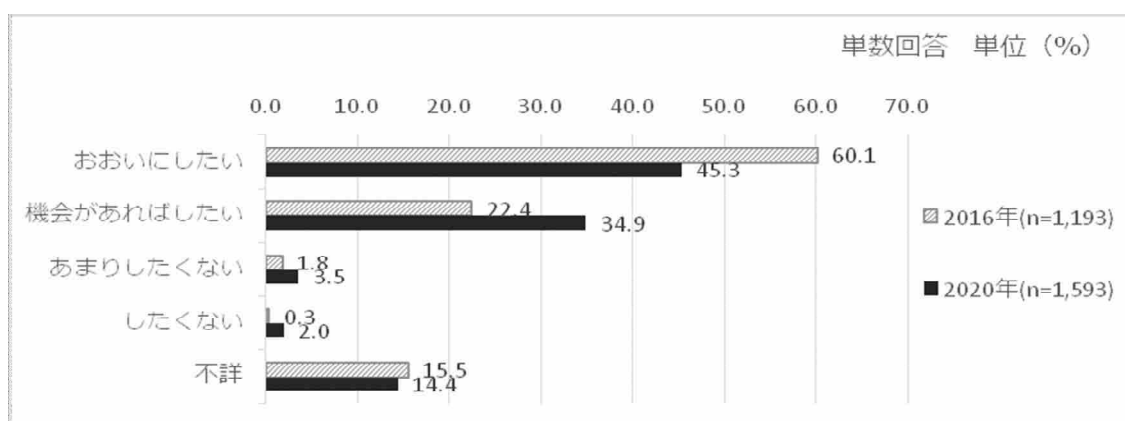
「あまりしたくない」と「したくない」の合計を見ると、「F相談窓口やイベント等での通訳や翻訳のボランティアを行う」が34.5%で最も多く、次いで「C自治会活動に参加する」が28.6%、「E母国の言葉、文化を日本人の住民に紹介する」が17.0%であった。

○2016年調査と2020年調査の比較 A 日本語を学ぶ／日本語を身につける



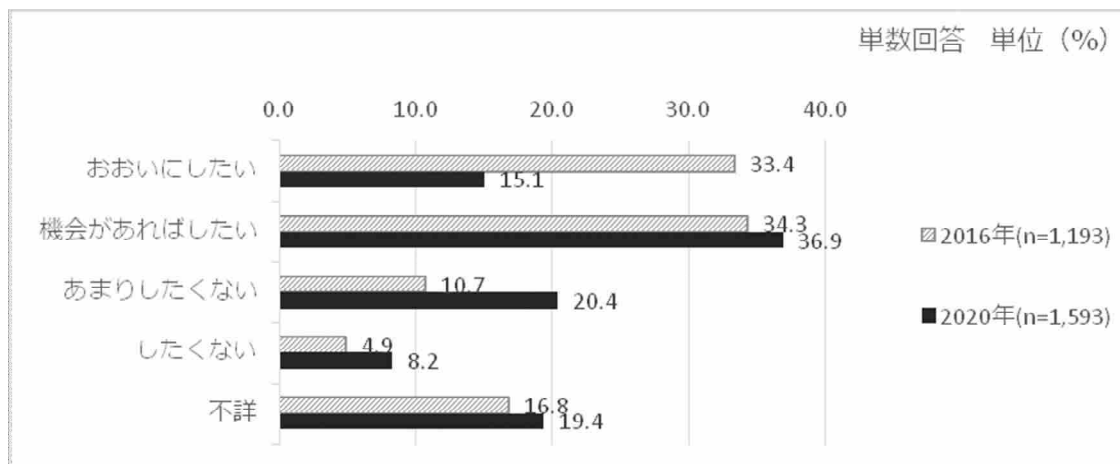
2020年調査では、「おいにしたい」が45.6%で最も多く、次いで「機会があればしたい」が35.0%であった。2016年調査に比べ、「おいにしたい」と「機会があればしたい」の合計は、85.8%から80.6%へと、5.2ポイント低下している。

○2016年調査と2020年調査の比較 B 日本の文化、生活習慣を理解するようにつとめる／地域のルールや習慣を知る



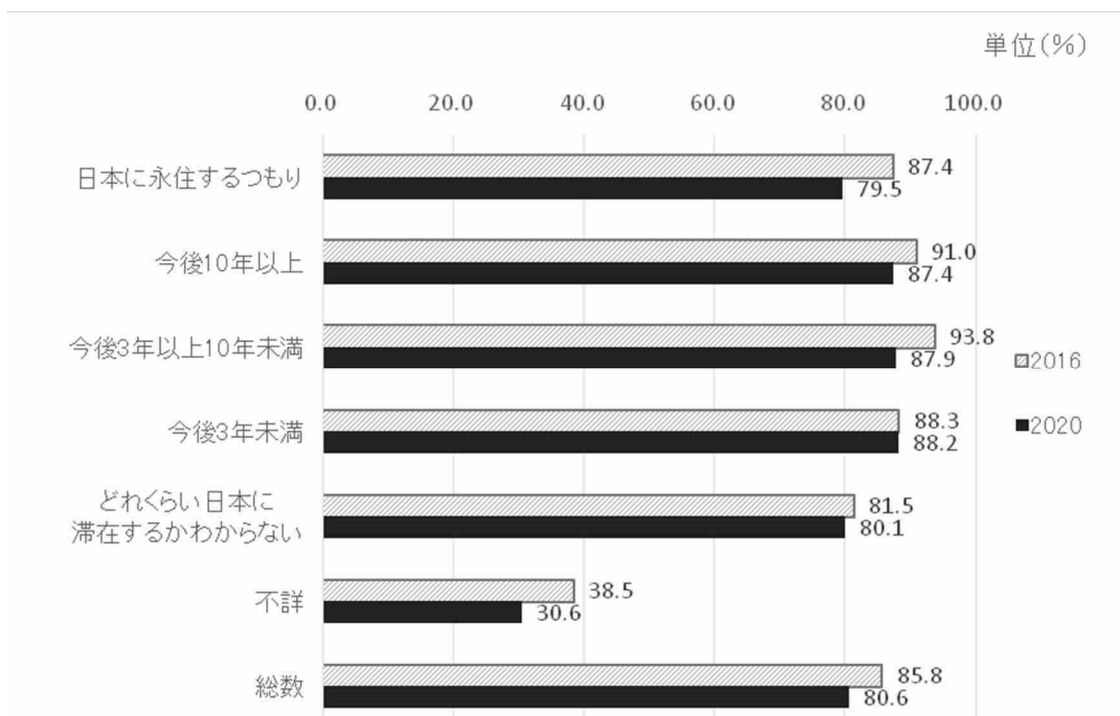
2020年調査では、「おいにしたい」が45.3%で最も多く、次いで「機会があればしたい」が34.9%であった。2016年調査に比べ、「おいにしたい」と「機会があればしたい」の合計は、82.5%から80.2%へと、2.3ポイント低下している。

○2016年調査と2020年調査の比較 C 自治会活動に参加する／自治会活動に参加する



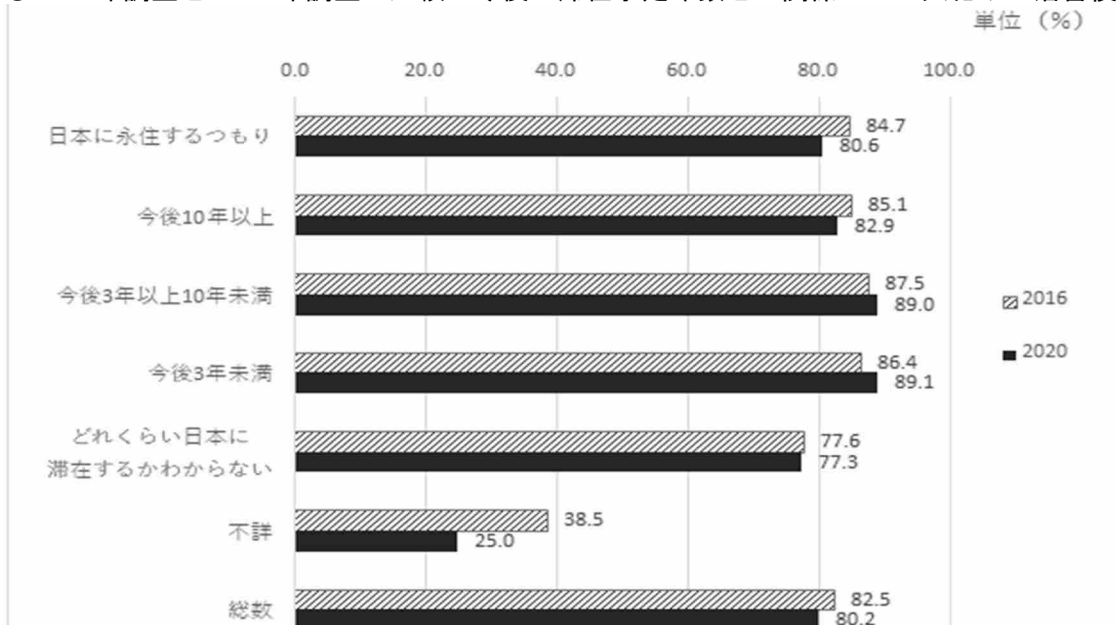
2020年調査では、「機会があればしたい」が36.9%で最も多く、次いで「あまりしたくない」が20.4%であった。2016年調査に比べ、「おいにしたい」と「機会があればしたい」の合計は、67.7%から52.0%へと、15.7ポイント低下している。

○2016年調査と2020年調査の比較 今後の滞在予定年数との関係 A 日本語学習



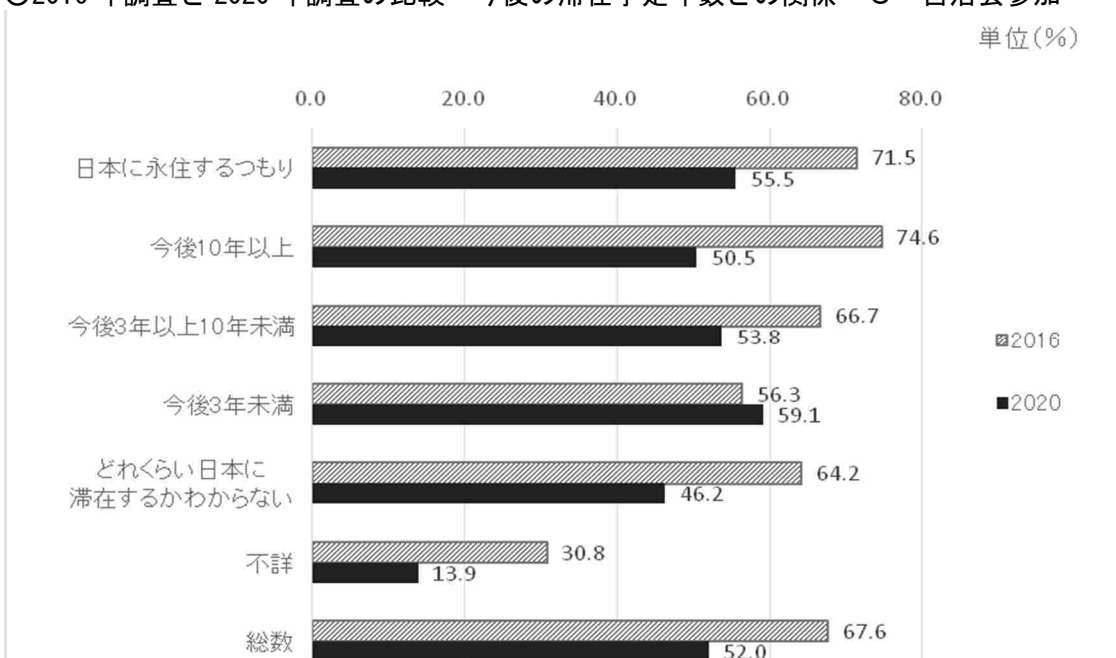
2020年調査では、「おいにしたい」又は「機会があればしたい」と回答した割合の合計を、今後の滞在予定年数別に見ると、「今後3年未満」が88.2%で最も多く、次いで「今後3年以上10年未満」が87.9%、「今後10年以上」が87.4%であった。

○2016年調査と2020年調査の比較 今後の滞在予定年数との関係 B 文化や生活習慣
単位 (%)



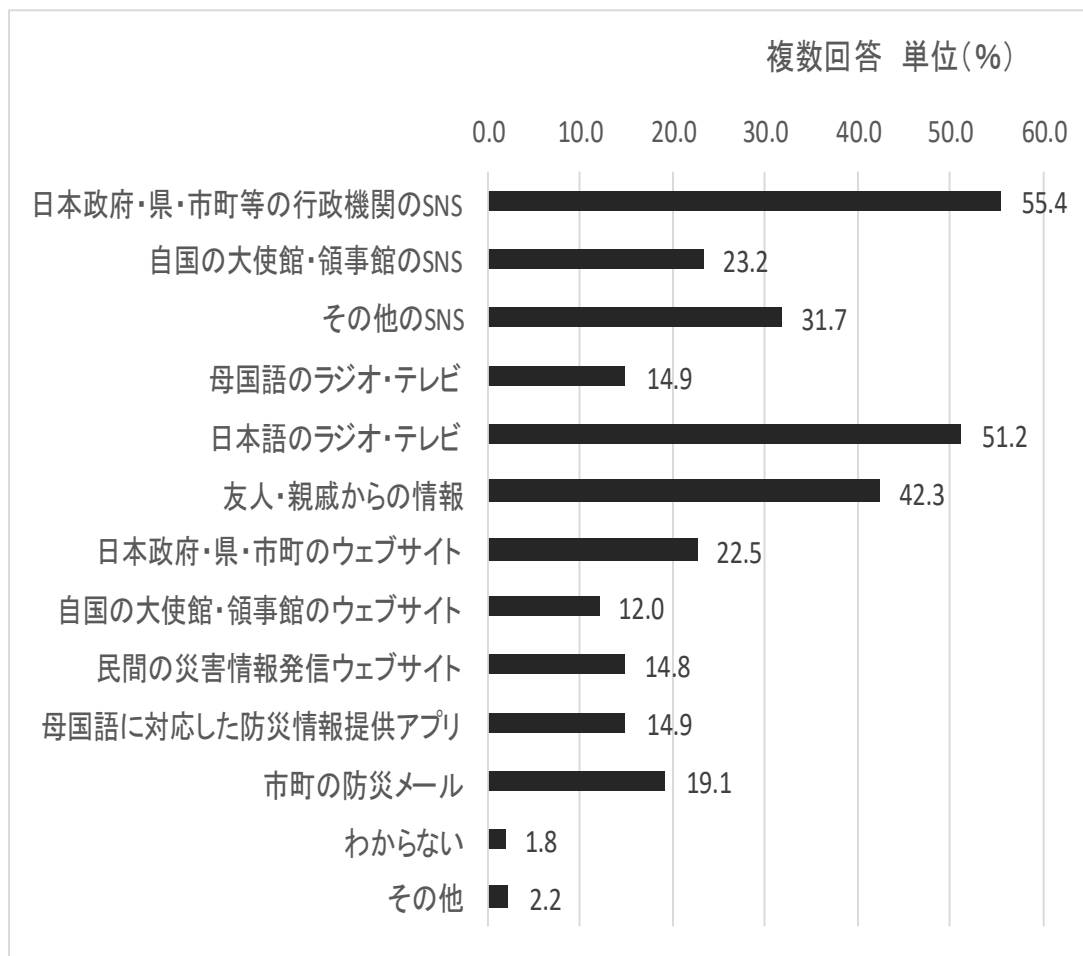
2020年調査では、「おおいにしたい」又は「機会があればしたい」と回答した割合の合計を、今後の滞在予定年数別に見ると、「今後3年未満」が89.1%で最も多く、次いで「今後3年以上10年未満」が89.0%、「今後10年以上」が82.9%であった。

○2016年調査と2020年調査の比較 今後の滞在予定年数との関係 C 自治会参加
単位 (%)



2020年調査では、「おおいにしたい」又は「機会があればしたい」と回答した割合の合計を、今後の滞在予定年数別に見ると、「今後3年未満」が59.1%で最も多く、次いで「日本に永住するつもり」が55.5%、「今後3年以上10年未満」が53.8%であった。

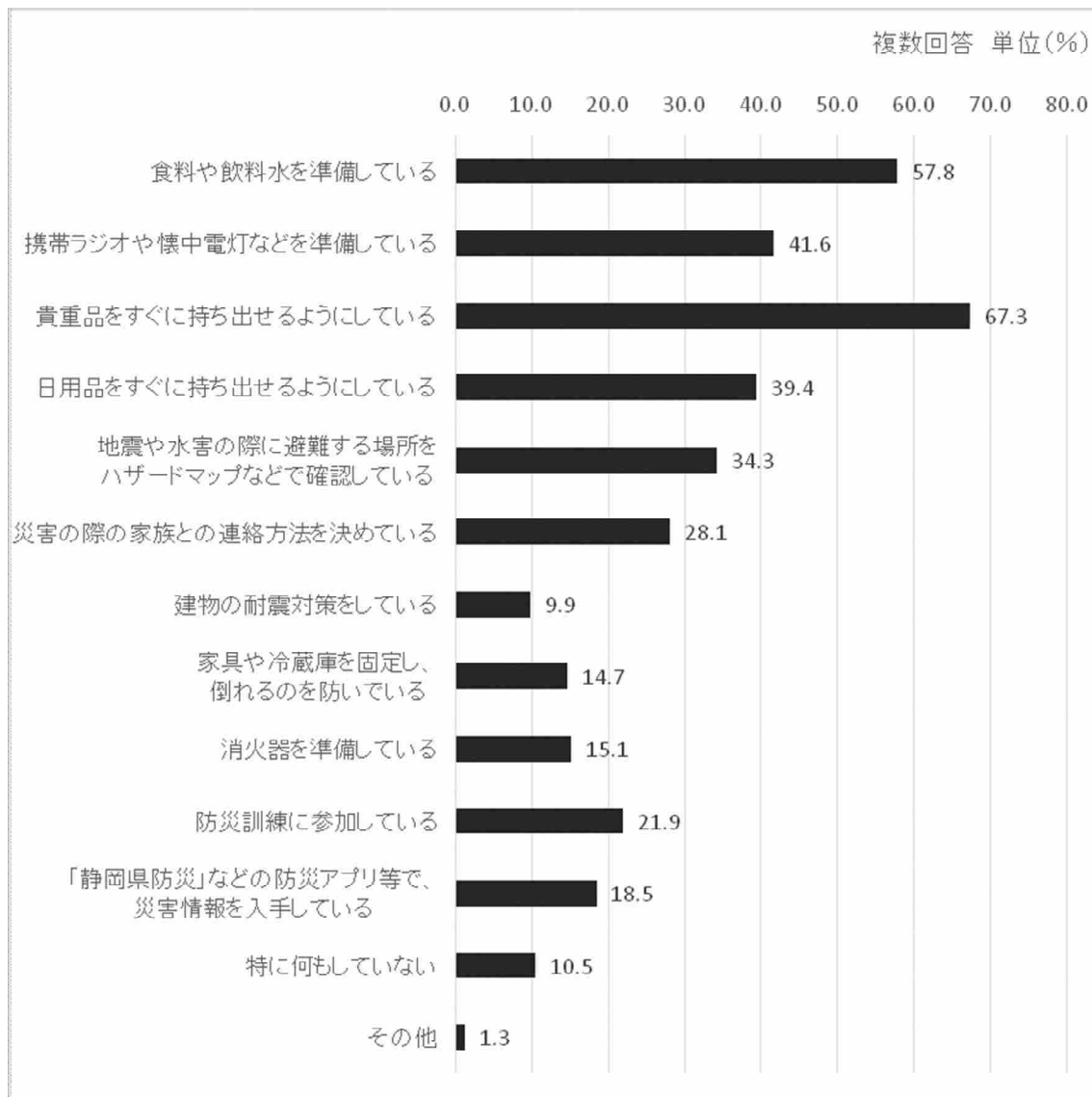
問 13 災害時における情報入手方法について、教えてください。(複数回答)



* n=1,593

「日本政府・県・市町等の行政機関の SNS」が 55.4%で最も多く、次いで「日本語のラジオ・テレビ」が 51.2%、「友人・親戚からの情報」が 42.3%であった。

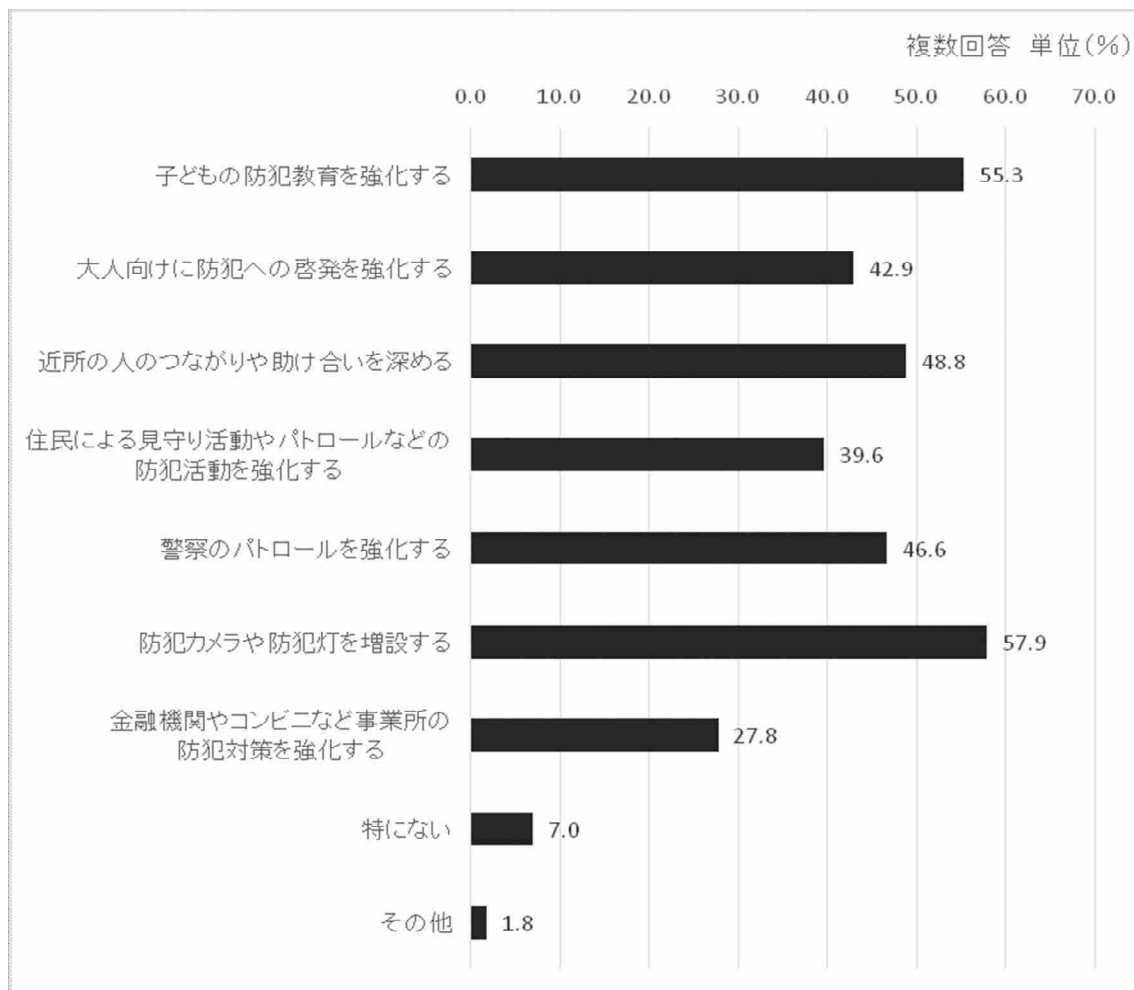
問 14 あなたは、日頃から、災害に備えて、どのような準備をしていますか。（複数回答）



* n=1,593

「貴重品（パスポート・財布等）をすぐに持ち出せるようにしている」が 67.3%で最も多く、次いで「食料や飲料水を準備している」が 57.8%、「日用品をすぐに持ち出せるようにしている」が 39.4%であった。

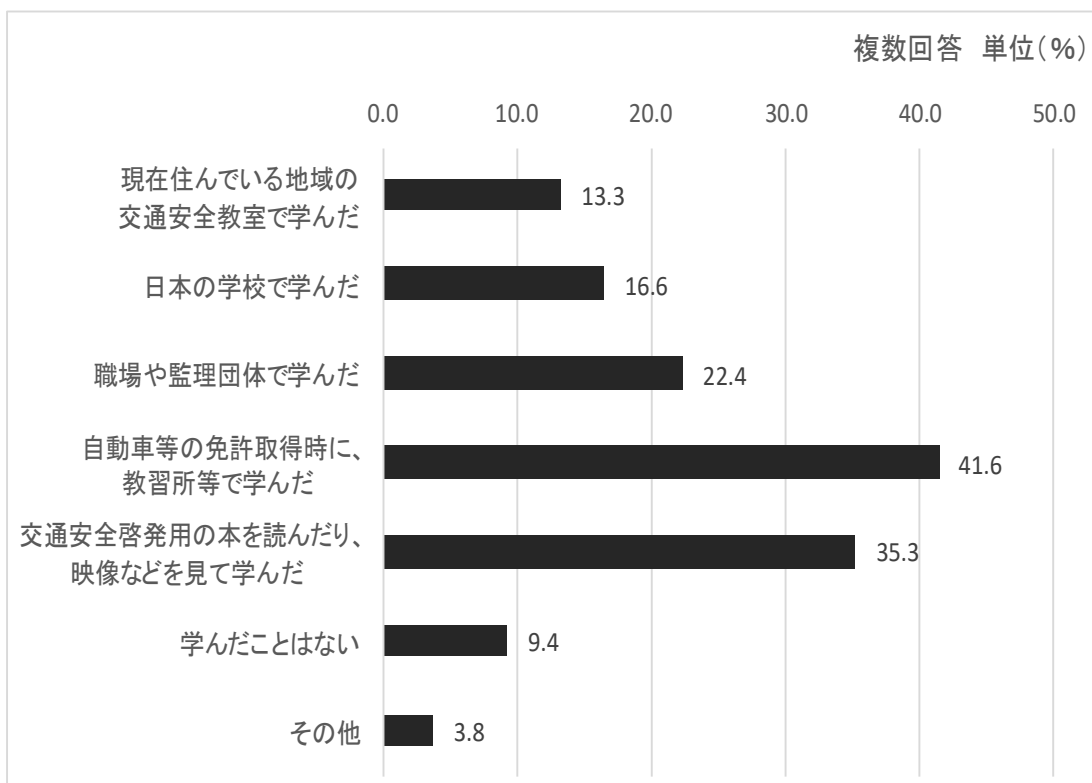
問 15 あなたは、地域の犯罪を減らすために、必要なことは何だと思いますか。(複数回答)



※n=1,593

「防犯カメラや防犯灯を増設する」が57.9%で最も多く、次いで「子どもの防犯教育を強化する」が55.3%、「近所の人のつながりや助け合いを深める」が48.8%であった。

問 16 あなたは、日本の交通ルールをどこで学びましたか。(複数回答)



* n=1,593

「自動車等の免許取得時に、教習所等で学んだ」が41.6%で最も多く、次いで「交通安全啓発用の本を読んだり、映像等を見て学んだ」が35.3%、「職場や監理団体で学んだ」が22.4%であった。

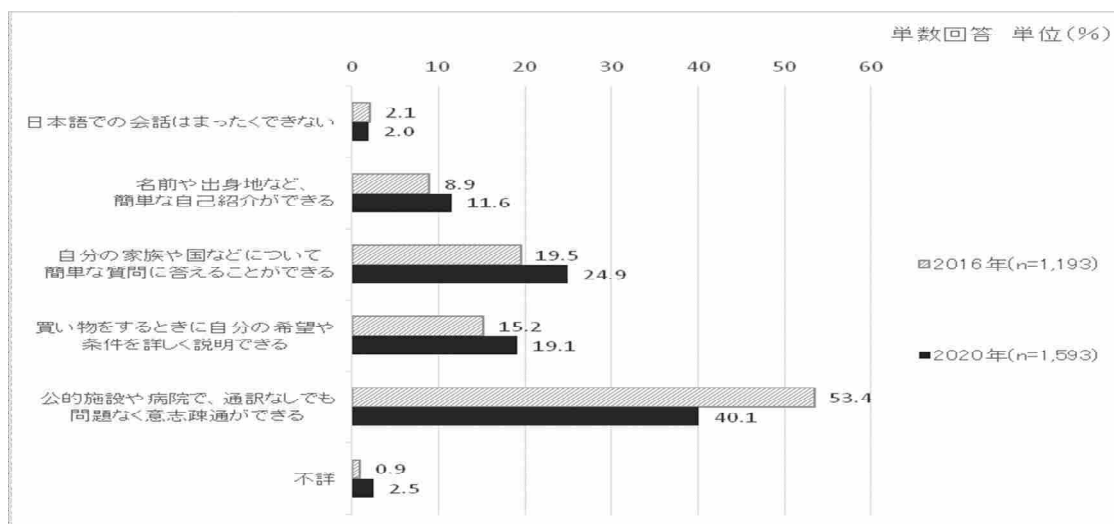
問 17 あなたは、日本語がどのくらいできますか。(単数回答)

(会話) については、「公的施設や病院で、通訳なしでも問題なく意思疎通ができる」が 40.1%で最も多く、次いで「自分の家族や国などについて簡単な質問に答えることができる」が 24.9%、「買い物をするときに自分の希望や条件を詳しく説明できる」が 19.1%であった。

(読む) については、「ひらがな付きであれば公的施設や学校からの通知(お知らせ)を読んで理解できる」が 30.1%で最も多く、次いで「カタカナやひらがなで書かれた国名や都市名を読むことができる」が 29.1%、「新聞を読むことができる」が 16.5%であった。

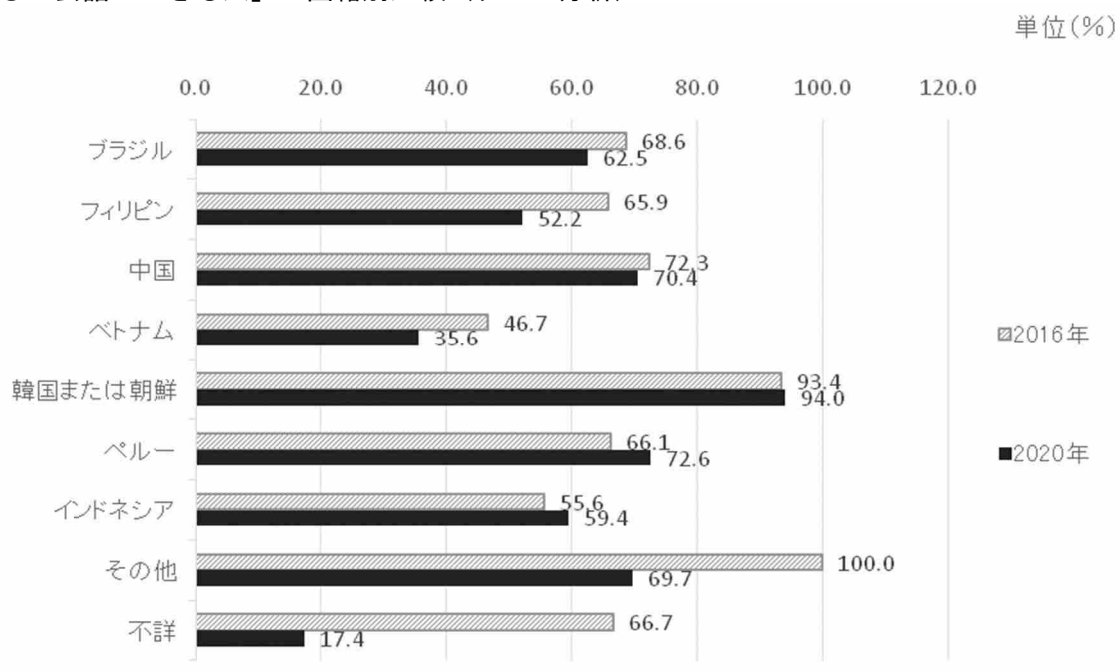
(書く) については、「自分の名前をカタカナで書くことができる」が 31.7%で最も多く、次いで「仕事の伝言メモや公的書類等を、ひらがなやカタカナで書くことができる」が 22.3%、「仕事の伝言メモや公的書類等を、漢字を含めて書くことができる」が 21.1%であった。

(会話)



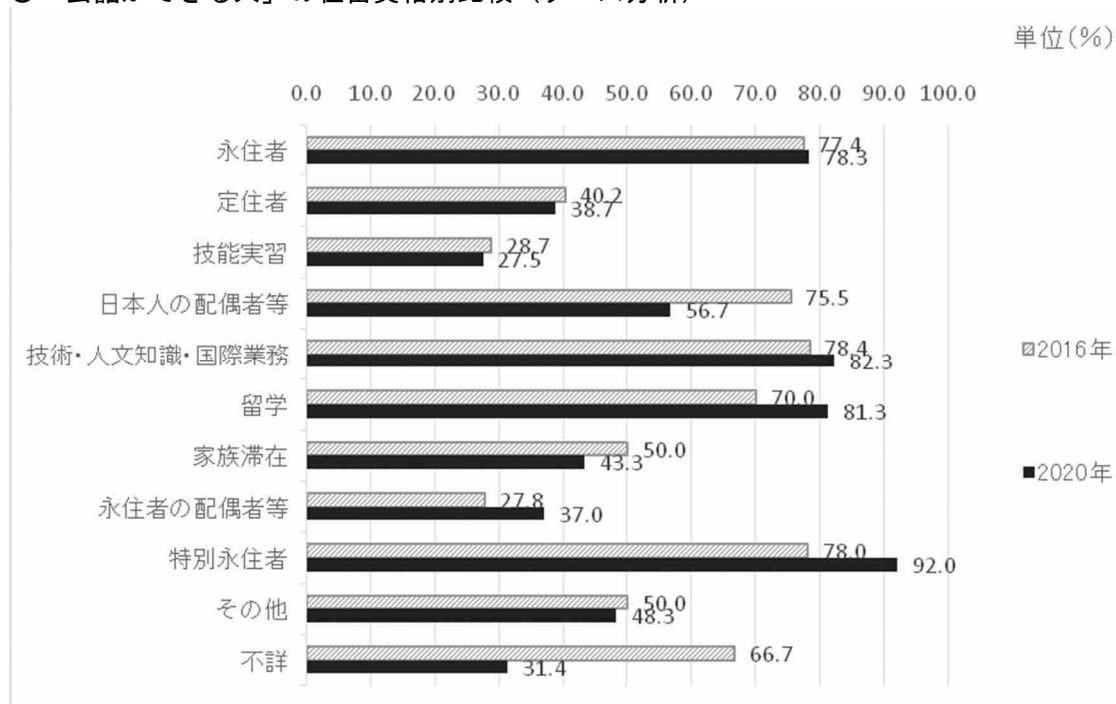
2016年調査と2020年調査を比べると、「公的施設や病院で、通訳なしでも問題なく意思疎通できる」が、53.4%から40.1%へと13.3ポイント低下している。

○「会話ができる人」の国籍別比較（クロス分析）



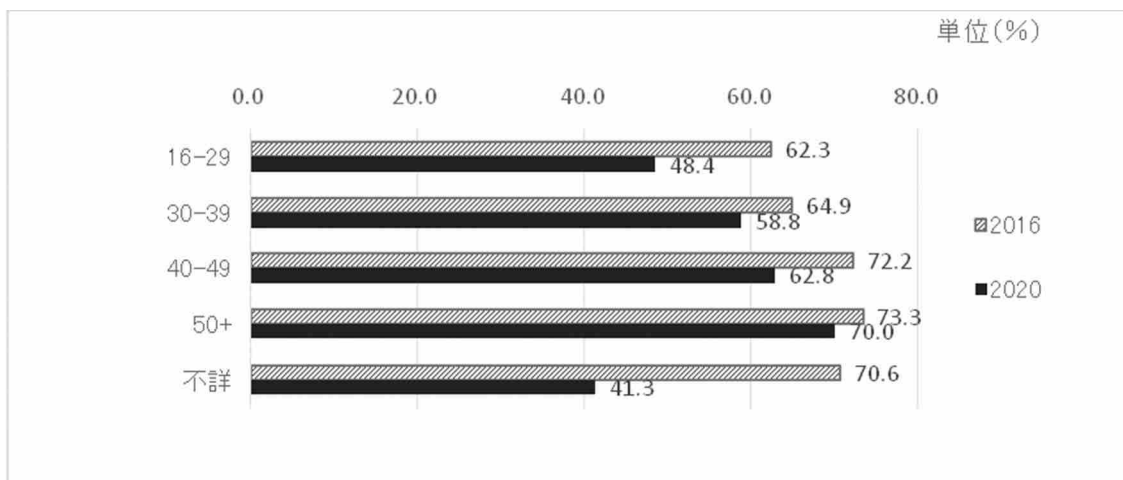
2020年調査では、「公的施設や病院で、通訳なしでも問題なく意思疎通できる」又は「買い物をするときに自分の希望や条件を詳しく説明できる」と回答した人を「会話ができる人」とすると、ベトナム（35.6%）以外は、50%を超えている。

○「会話ができる人」の在留資格別比較（クロス分析）



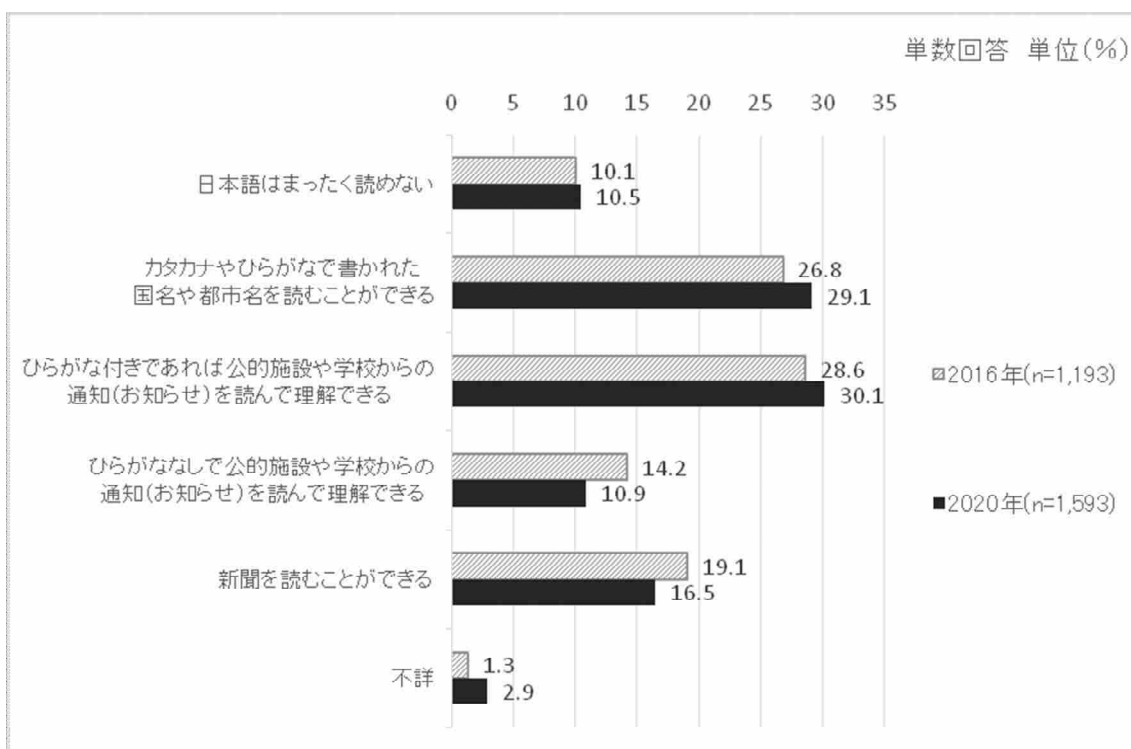
2020年調査では、「特別永住者」が92.0%で最も多く、次いで「技術・人文知識・国際業務」が82.3%、「留学」が81.3%であった。

○「会話ができる人」の年代別比較（クロス分析）



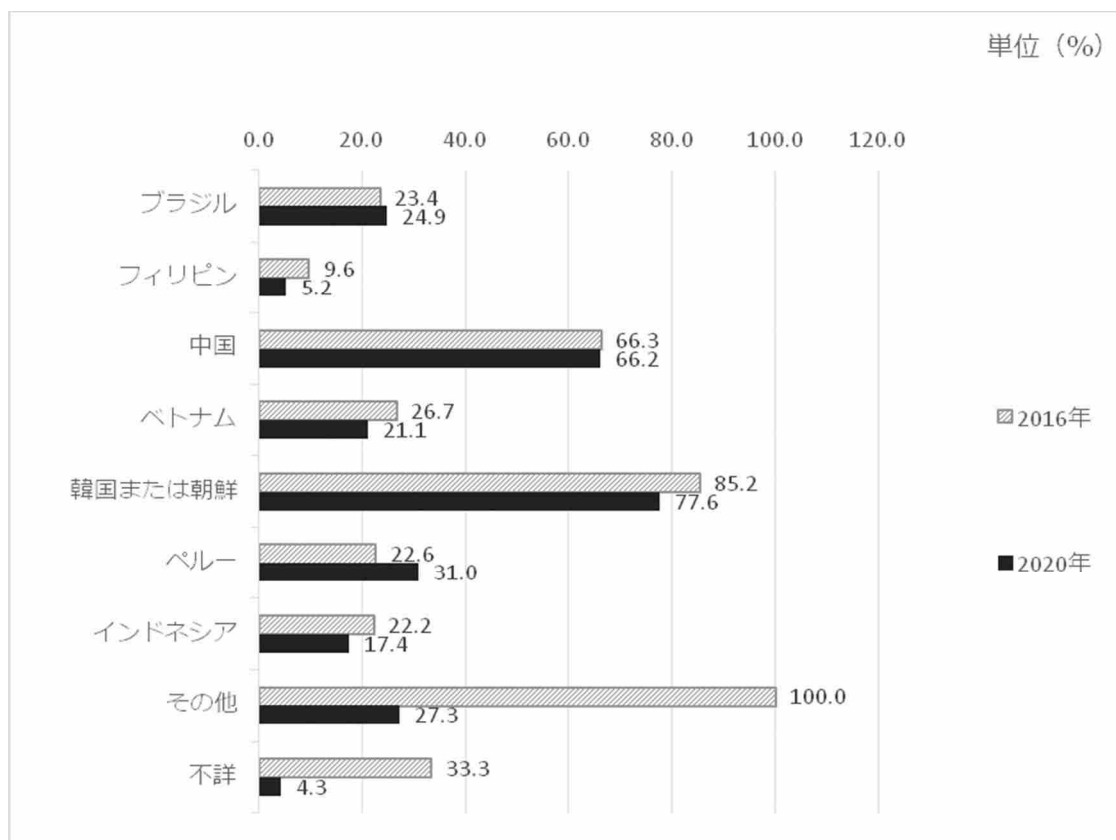
2020年調査では、年代が高くなるにつれて割合が高くなっている。

(読む)



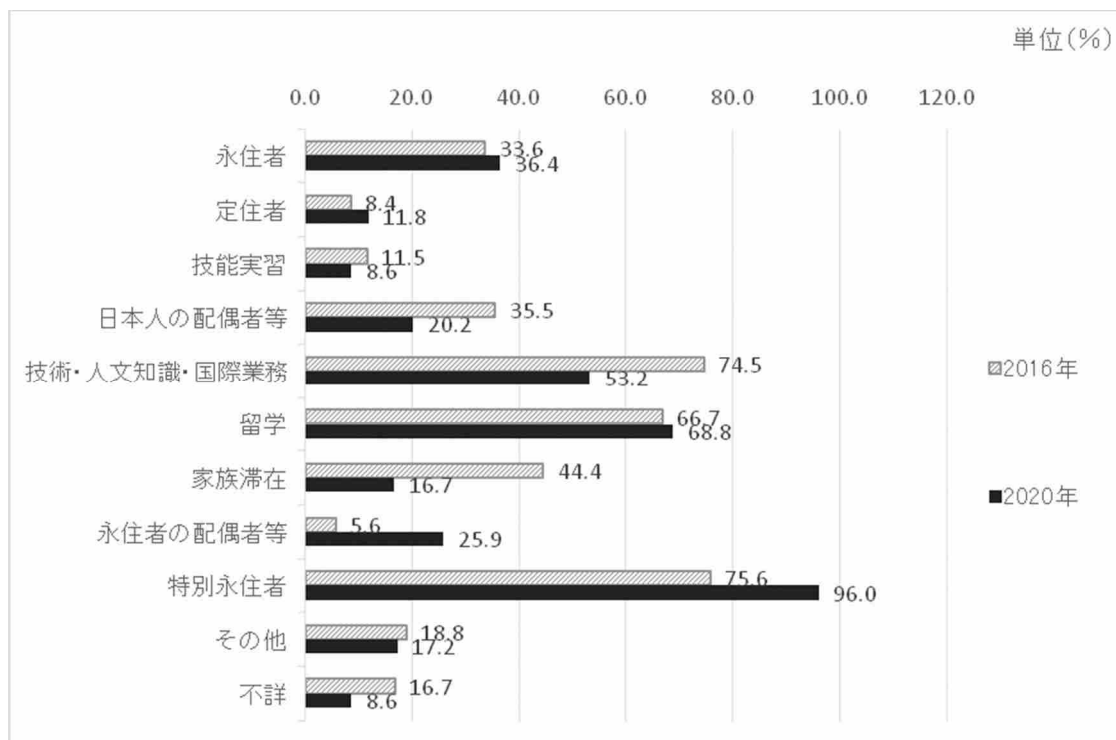
2016年調査と2020年調査を比べると、回答の傾向に変化は見られなかった。

○「日本語が読める人」の国籍別比較（クロス分析）



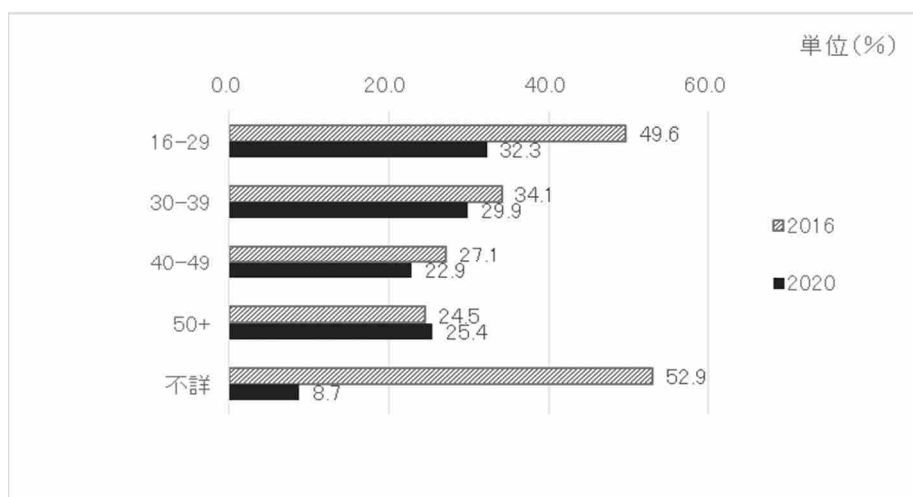
2020年調査では、「ひらがななしで公的施設や学校からの通知（お知らせ）を読んで理解できる」又は「新聞を読むことができる」と回答した者を、「日本語が読める人」とすると、「韓国または朝鮮」が77.6%で最も多く、次いで「中国」が66.2%、「ペルー」が31.0%であった。

○「日本語が読める人」の在留資格別比較



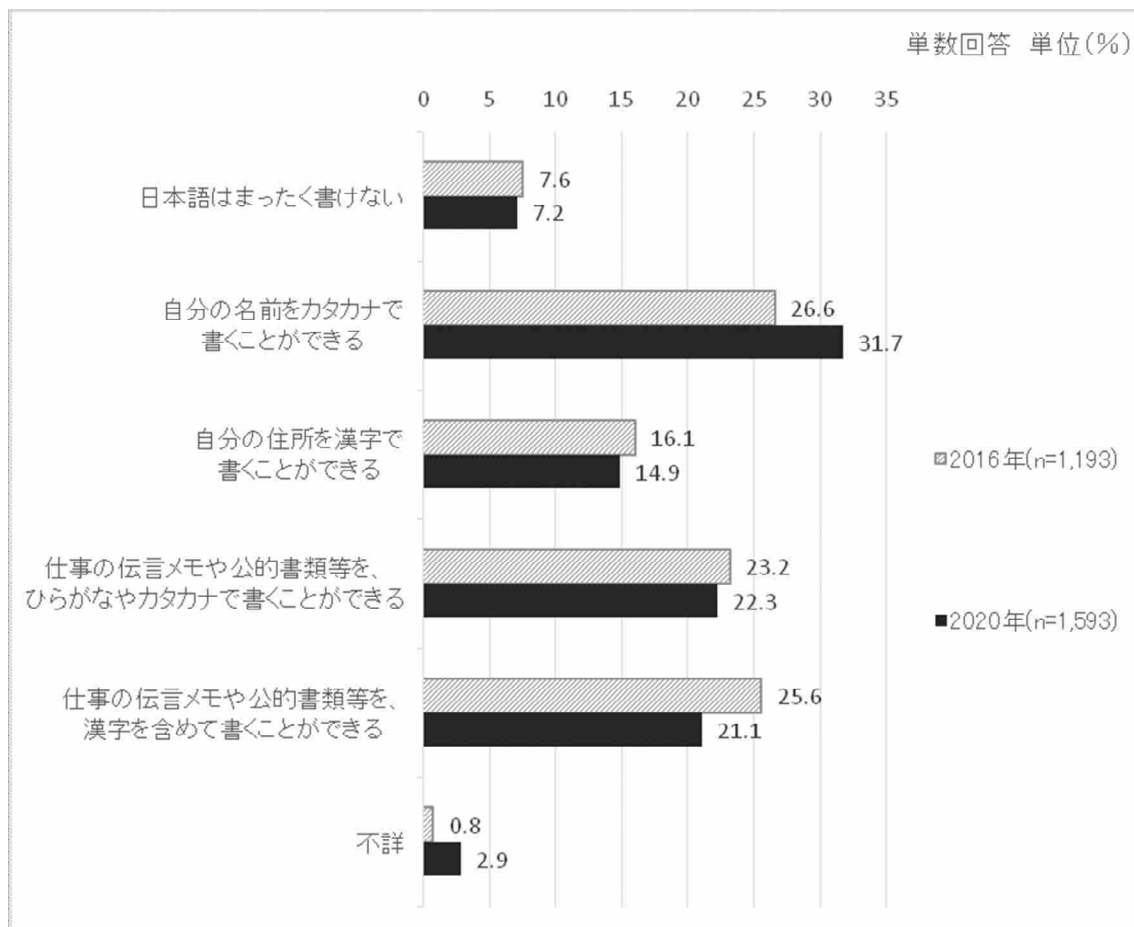
2020年調査では「特別永住者」が96.0%で最も多く、次いで「留学」が68.8%、「技術・人文知識・国際業務」が53.2%であった。

○「日本語が読める人」の年代別比較（クロス分析）



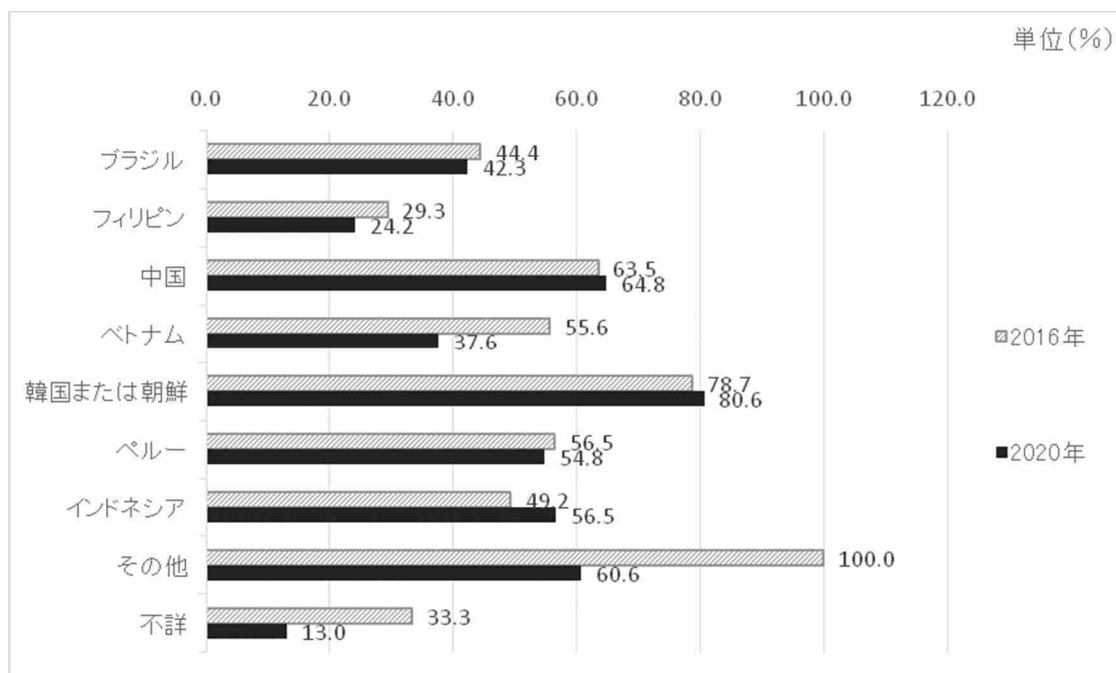
2020年調査では、「16-29歳」が32.3%で最も多く、次いで「30-39歳」が29.9%、「50歳以上」が25.4%であった。

(書く)



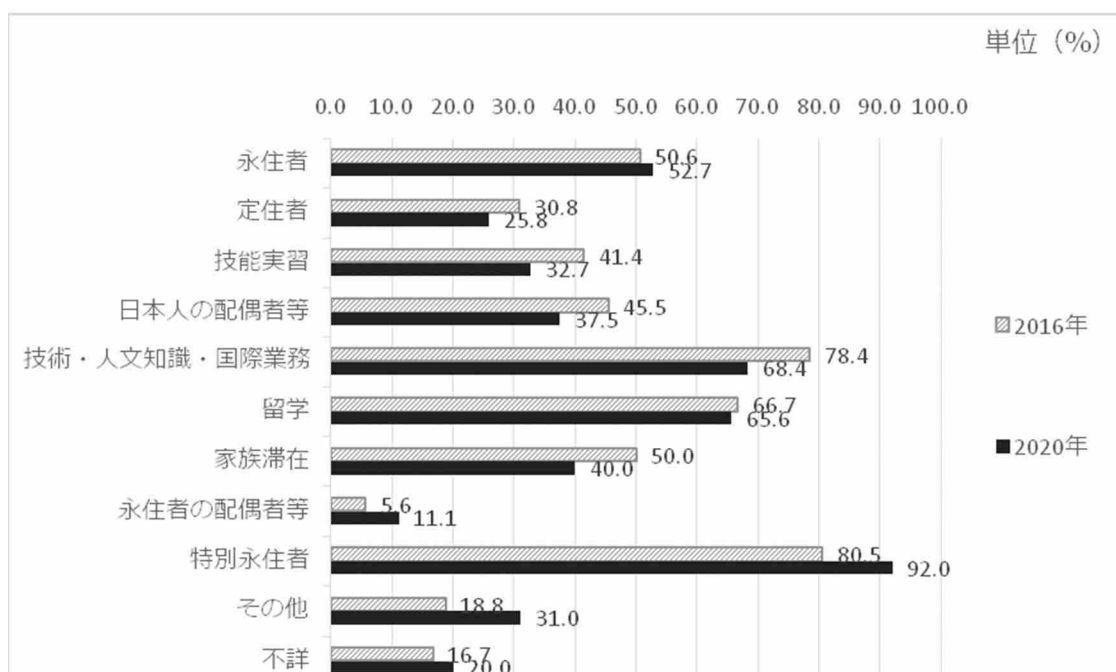
「仕事の伝言メモや公的書類等を、ひらがなやカタカナで書くことができる」又は「仕事の伝言メモや公的書類等を、漢字を含めて書くことができる」と回答した者を「日本語が書ける人」として、2016年調査と2020年調査を比べると、2016年の48.8%から2020年は43.4%となり、5.4ポイント低下している。

○「日本語が書ける人」の国籍別比較（クロス分析）



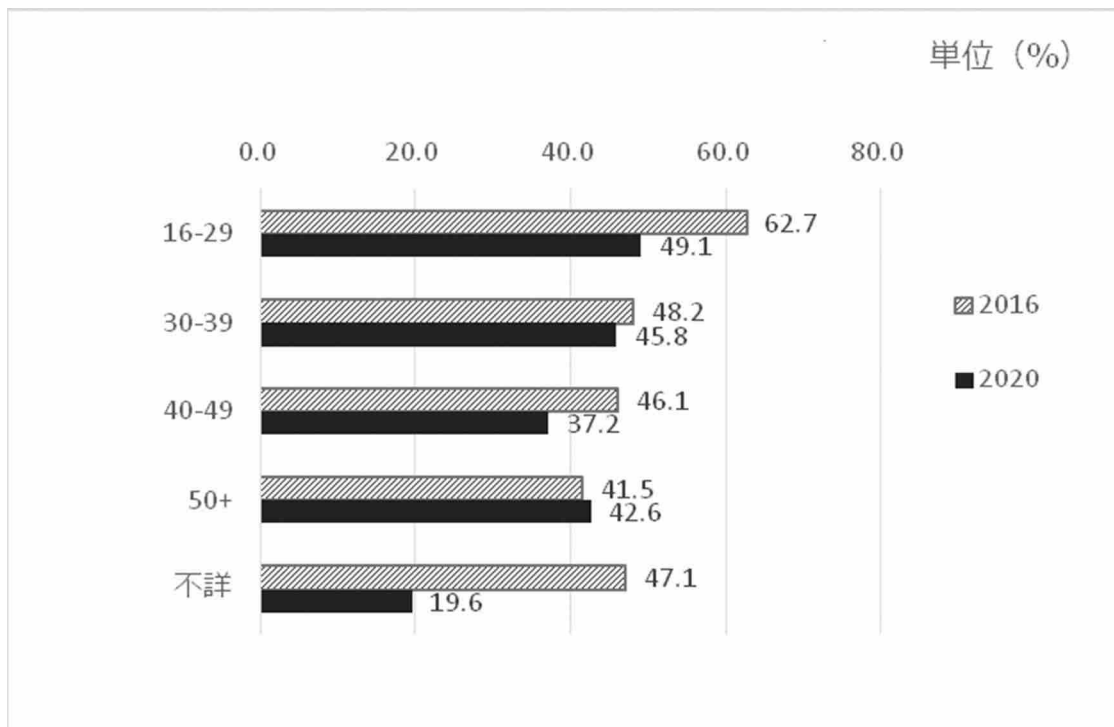
2020年調査では、「韓国または朝鮮」が80.6%で最も多く、次いで「中国」が64.8%、「インドネシア」が56.5%であった。

○「日本語が書ける人」の在留資格別比較（クロス分析）



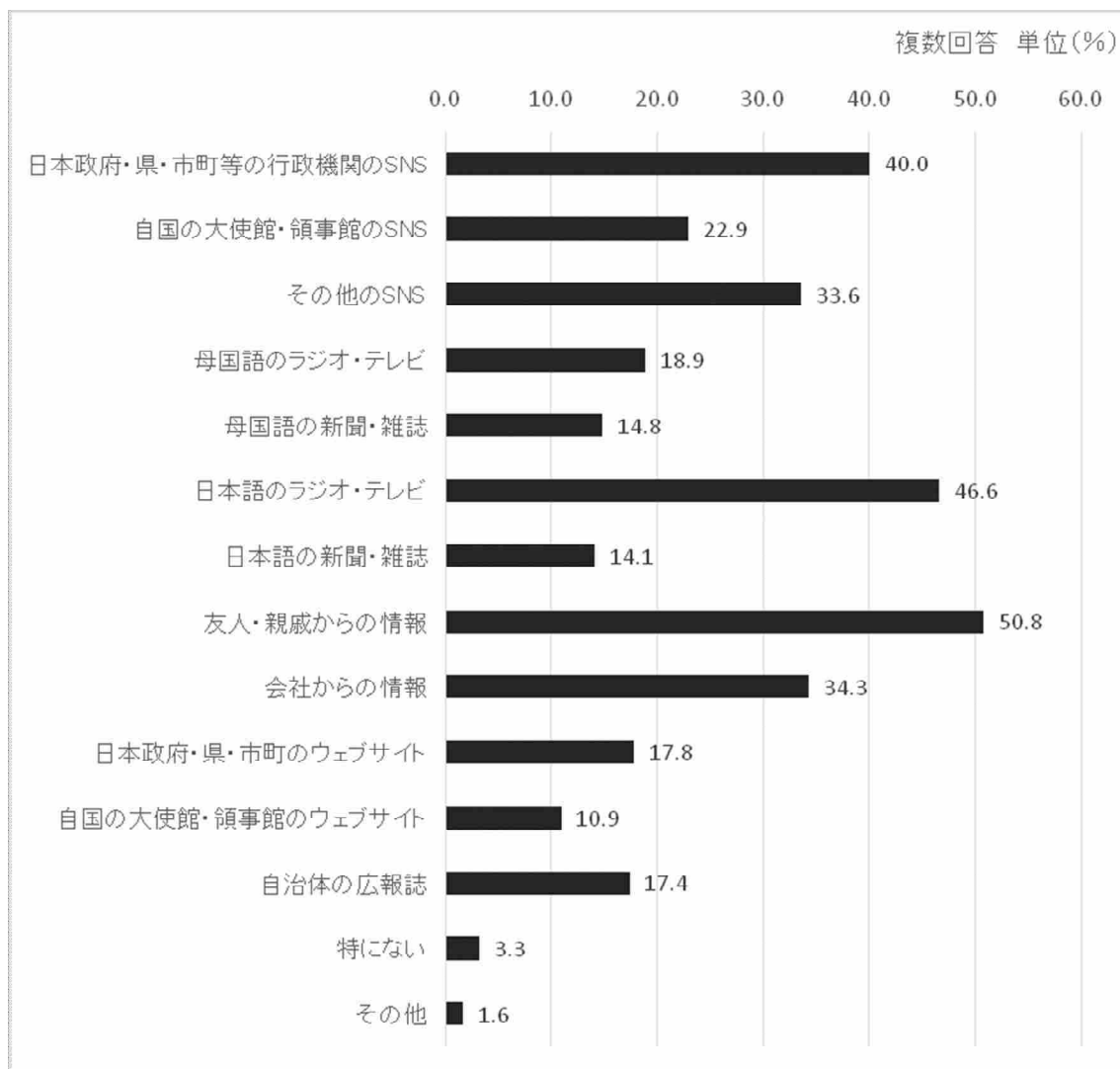
2020年調査では、「特別永住者」が92.0%で最も多く、次いで「技術・人文知識・国際業務」が68.4%、「留学」が65.6%であった。「永住者の配偶者等」、「定住者」、「技能実習」は低くなっている。

○「日本語が書ける人」の年代別比較



2020年調査では、「16-29歳」が49.1%で最も多く、次いで「30-39歳」が45.8%、「50歳以上」が42.6%であった。

問 18 生活に関する情報をどのように入手していますか。(複数回答)



* n=1,593

「友人・親戚からの情報」が50.8%で最も多く、次いで「日本語のラジオ・テレビ」が46.6%、「日本政府・県・市町等の行政機関のSNS」が40.0%であった。

○生活情報の入手方法と国籍の関係

	ブラジル	フィリピン	中国	ベトナム	韓国または 朝鮮	ペルー	インド ネシア	ネパール	二重国籍	不詳	全体
日本政府・県・市町等の行政機関のSNS (Facebook, Twitter, LINE等)	35.6	46.2	42.7	46.4	26.9	35.7	33.3	56.7	66.7	13.0	40.0
自国の大使館・領事館のSNS (Facebook, Twitter, LINE等)	19.0	29.3	16.0	35.1	4.5	17.9	34.8	30.0	0.0	4.3	22.9
その他のSNS (Facebook, Twitter, LINE等)	41.3	37.8	15.0	26.3	17.9	28.6	55.1	50.0	0.0	0.0	33.6
母国語のラジオ・テレビ	17.5	22.3	19.2	20.6	9.0	26.2	7.2	30.0	0.0	4.3	18.9
母国語の新聞・雑誌	20.7	9.0	7.5	18.6	3.0	25.0	5.8	40.0	0.0	0.0	14.8
日本語のラジオ・テレビ	51.7	42.4	63.8	23.7	76.1	44.0	29.0	43.3	33.3	8.7	46.6
日本語の新聞・雑誌	11.3	6.3	31.5	11.9	46.3	13.1	2.9	13.3	33.3	4.3	14.1
友人・親戚からの情報	53.7	59.2	48.4	30.4	55.2	44.0	59.4	70.0	0.0	8.7	50.8
会社からの情報	30.1	39.4	35.2	38.7	26.9	22.6	44.9	60.0	0.0	8.7	34.3
日本政府・県・市町のウェブサイト	13.7	21.2	26.8	13.9	29.9	20.2	5.8	16.7	0.0	4.3	17.8
自国の大使館・領事館のウェブサイト	7.0	16.6	10.8	11.3	4.5	9.5	14.5	30.0	0.0	0.0	10.9
自治体の広報紙	21.2	8.7	28.2	7.7	25.4	35.7	5.8	6.7	0.0	8.7	17.4
特になし	3.9	2.4	1.4	5.2	7.5	1.2	2.9	3.3	0.0	0.0	3.3
その他	1.7	1.9	1.4	1.5	0.0	2.4	1.4	3.3	0.0	0.0	1.6
実数 (人)	542	368	213	194	67	84	69	30	3	23	1,593

ブラジルは、「友人・親戚からの情報」が53.7%で最も多く、次いで「その他のSNS」が41.3%であった。

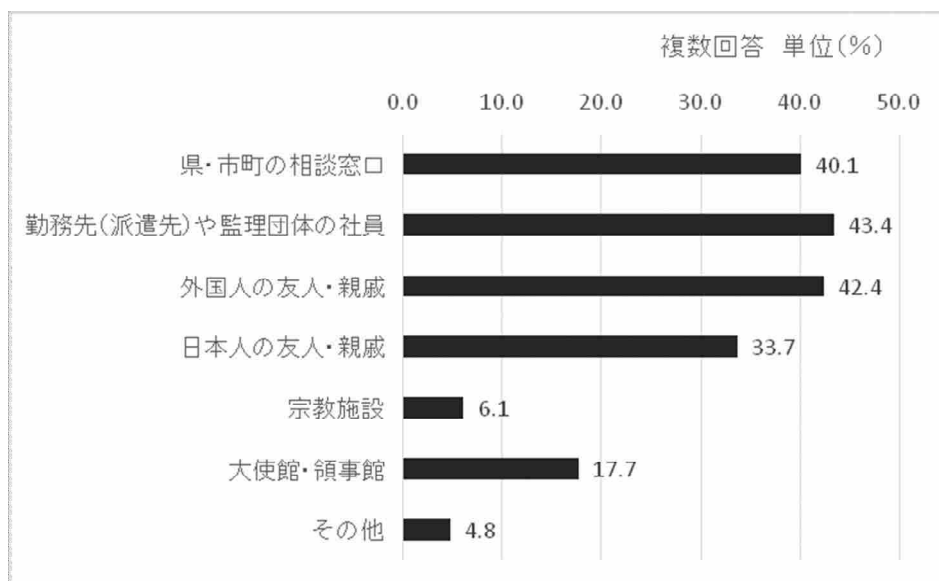
そのほかの国籍で、「友人・親戚からの情報」が最も多いのはフィリピン、ペルー、インドネシア、ネパールであり、それぞれ59.2%、44.0%、59.4%、70.0%であった。

フィリピンは次いで「日本政府・県・市町等の行政機関のSNS」が46.2%、ペルーは「日本語のラジオ・テレビ」が同じ割合で44.0%、インドネシアは次いで「その他のSNS」が55.1%、ネパールは「会社からの情報」が60.0%であった。

中国、韓国または朝鮮は、「日本語のラジオ・テレビ」がそれぞれ63.8%、76.1%で最も多く、次いで「友人・親戚からの情報」が48.4%、55.2%であった。

ベトナムは「日本政府・県・市町等の行政機関のSNS」が46.4%で最も多く、次いで「会社からの情報」が38.7%であった。

問 19 あなたが困ったときの相談先はどこですか。(複数回答)



* n=1,593

「勤務先（派遣先）や監理団体の社員」が43.4%で最も多く、次いで「外国人の友人・親戚」が42.4%、「県・市町の相談窓口」が40.1%であった。

○困った時の相談先と国籍の関係

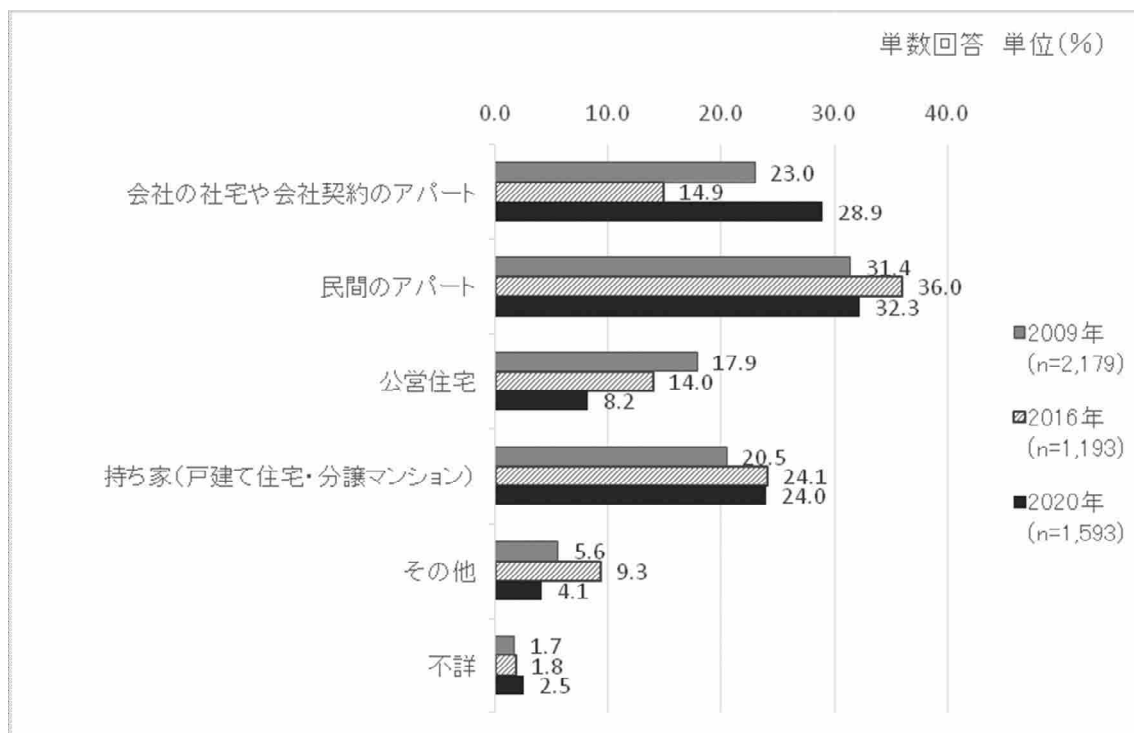
	ブラジル	フィリピン	中国	ベトナム	韓国または朝鮮	ペルー	インドネシア	ネパール	二重国籍	不詳	全体
県・市町の相談窓口	54.8	26.6	51.2	21.6	41.8	35.7	17.4	66.7	33.3	4.3	40.1
勤務先（派遣先）や監理団体の社員	43.9	44.6	34.7	65.5	22.4	19.0	59.4	50.0	0.0	8.7	43.4
外国人の友人・親戚	48.7	57.9	26.3	16.0	22.4	53.6	40.6	63.3	66.7	8.7	42.4
日本人の友人・親戚	31.5	31.3	49.8	14.4	58.2	38.1	40.6	56.7	0.0	4.3	33.7
宗教施設	6.3	11.4	1.4	2.6	4.5	3.6	10.1	0.0	0.0	0.0	6.1
大使館・領事館	13.7	12.0	22.1	39.2	9.0	8.3	23.2	40.0	0.0	0.0	17.7
その他	3.7	7.3	3.8	2.6	7.5	6.0	5.8	3.3	0.0	4.3	4.8
実数（人）	542	368	213	194	67	84	69	30	3	23	1,593

「県・市町の相談窓口」が最も多いのは、ネパール、ブラジル、中国、韓国または朝鮮で、それぞれ66.7%、54.8%、51.2%、41.8%であった。

「勤務先（派遣先）や監理団体の社員」が最も多いのは、ベトナム、インドネシアでそれぞれ65.5%、59.4%であった。

「外国人の友人・親戚」が最も多いのは、フィリピン、ペルーでそれぞれ57.9%、53.6%であった。

問 20 あなたの現在のお住まいはどれに当たりますか。(単数回答)



2020年調査では、「民間のアパート」が32.3%で最も多く、次いで「会社の社宅や会社契約のアパート」が28.9%、「持ち家(戸建て住宅・分譲マンション)」が24.0%であった。

○在留資格と住まいとの関係

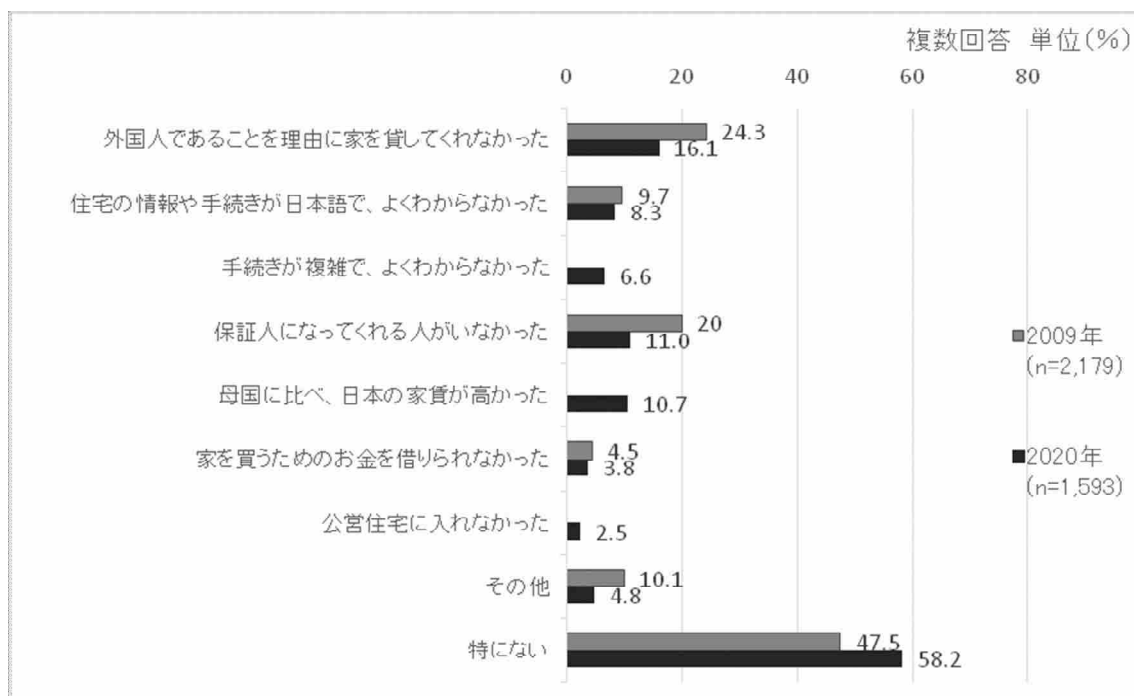
	単数回答 単位(%)						実数(人)
	会社の社宅や会社契約のアパート	民間のアパート	公営住宅	持ち家(戸建て住宅・分譲マンション)	その他	不詳	
永住者	7.5	34.5	10.8	42.3	3.3	1.4	692
定住者	20.3	50.9	14.0	5.5	8.1	1.1	271
技能実習	92.9	5.2	0.4	0.4	0.4	0.7	269
日本人の配偶者等	20.2	35.6	5.8	36.5	1.0	1.0	104
技術・人文知識・国際業務	58.2	31.6	0.0	3.8	3.8	2.5	79
留学	21.9	50.0	0.0	3.1	18.8	6.3	32
家族滞在	33.3	46.7	10.0	6.7	0.0	3.3	30
永住者の配偶者等	7.4	48.1	18.5	14.8	7.4	3.7	27
特別永住者	0.0	16.0	0.0	76.0	8.0	0.0	25
その他の在留資格	55.2	27.6	3.4	3.4	10.3	0.0	29
不詳	5.7	17.1	5.7	14.3	5.7	51.4	35
実数(人)	461	514	131	382	65	40	1,593

2020年調査では、「持ち家(戸建て住宅・分譲マンション)」が最も多いのは、「特別永住者」、「永住者」、「日本人の配偶者等」で、それぞれ76.0%、42.3%、36.5%であった。

「民間のアパート」が最も多いのは、「定住者」、「留学」、「永住者の配偶者等」で、それぞれ50.9%、50.0%、48.1%。

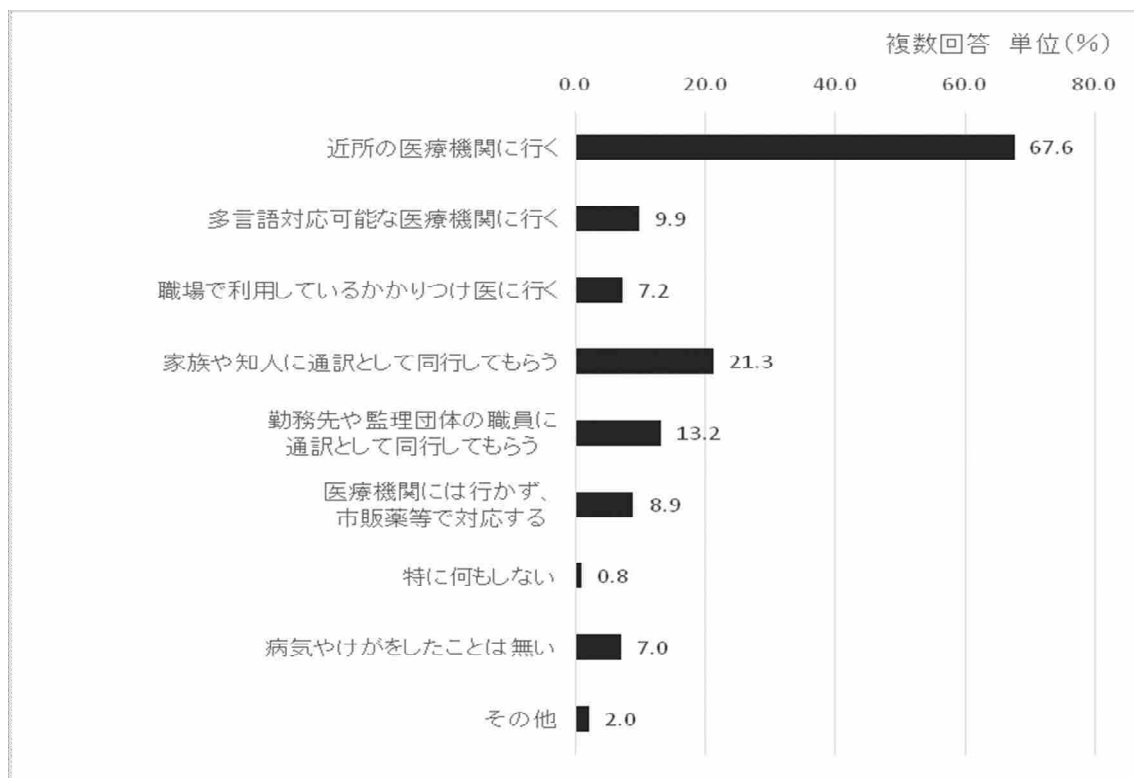
「会社の社宅や会社契約のアパート」が最も多いのは、「技能実習」、「技術・人文知識・国際業務」、「家族滞在」で、それぞれ92.9%、58.2%、33.3%であった。

問 21 住まいを探す際に困ったことは何ですか。(複数回答)



2020年調査では、「特にない」が58.2%で最も多く、次いで「外国人であることを理由に家を貸してくれなかった」が16.1%、「保証人になってくれる人がいなかった」が11.0%であった。

問 22 あなたは、病気やけがをした時、どうしていますか。(救急事案を除く)(複数回答)



* n=1,593

「近所の医療機関に行く」が67.6%で最も多く、次いで「家族や知人に通訳として同行してもらう」が21.3%、「勤務先や監理団体の職員に通訳として同行してもらう」が13.2%であった。

○病気やけがをしたときの対応と国籍の関係

複数回答 単位 (%)

	ブラジル	フィリピン	中国	ベトナム	韓国または 朝鮮	ペルー	インド ネシア	ネパール	二重国籍	不詳	全体
近所の医療機関に行く	61.8	71.7	81.2	57.2	95.5	77.4	53.6	86.7	33.3	4.3	67.6
多言語対応可能な医療機関に行く	13.7	5.4	5.6	8.8	0.0	27.4	5.8	16.7	0.0	8.7	9.9
職場で利用しているかかりつけ医に行く	7.6	9.8	4.7	5.2	3.0	1.2	11.6	13.3	0.0	8.7	7.2
家族や知人に通訳として同行してもらう	26.2	24.7	19.7	12.4	4.5	20.2	14.5	26.7	66.7	0.0	21.3
勤務先や監理団体の職員に通訳として同行してもらう	8.5	7.9	14.1	37.6	0.0	3.6	33.3	13.3	33.3	4.3	13.2
医療機関には行かず、市販薬等で対応する	12.0	5.7	8.9	8.2	1.5	6.0	14.5	10.0	0.0	8.7	8.9
特に何もしない	1.1	0.3	0.0	1.0	1.5	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
病気やけがをしたことは無い	3.9	9.5	3.8	13.4	3.0	6.0	15.9	13.3	0.0	0.0	7.0
その他	3.5	1.6	0.5	1.5	1.5	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	2.0
実数 (人)	542	368	213	194	67	84	69	30	3	23	1,593

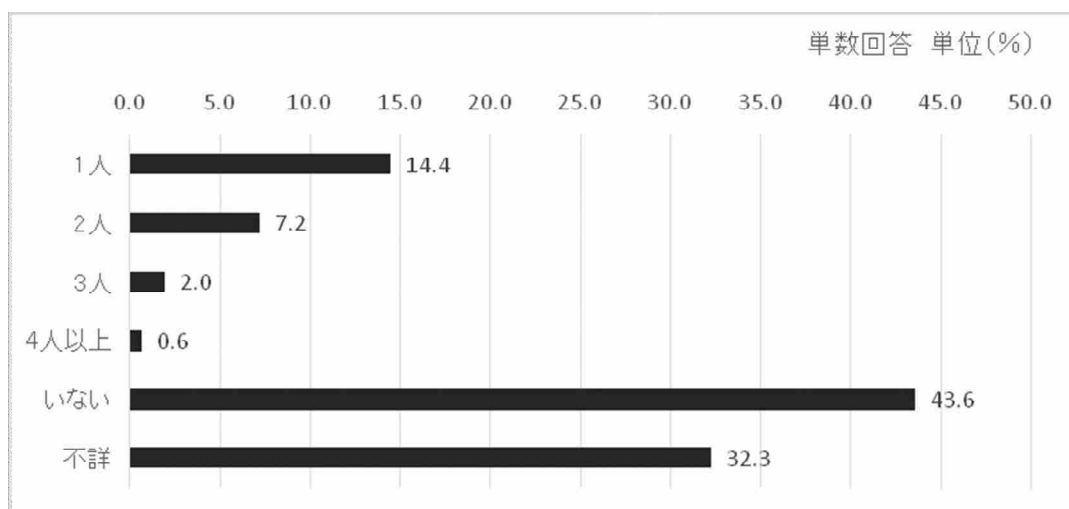
全国籍について、「近所の医療機関に行く」が最も多いが、国籍によりそのほかの対応内容に違いが見られる。

○病気やけがをしたときの対応と日本語の会話能力の関係

	複数回答 単位 (%)						
	日本語での会話は まったくできない	名前や出身地など、 簡単な自己紹介が できる	自分の家族や国 などについて 簡単な質問に 答えることが できる	買い物をするときに 自分の希望や条件を 詳しく説明できる	公的施設や病院で、 通訳なしでも 問題なく 意思疎通が できる	不詳	全体
近所の医療機関に行く	41.9	44.6	48.1	70.1	88.7	30.8	67.6
多言語対応可能な医療機関に行く	25.8	14.7	12.6	14.8	3.8	7.7	9.9
職場で利用している かかりつけ医に行く	3.2	8.2	6.8	10.9	5.6	5.1	7.2
家族や知人に通訳として 同行してもらう	67.7	46.7	32.0	22.4	5.2	10.3	21.3
勤務先や監理団体の職員に 通訳として同行してもらう	19.4	17.9	28.2	15.1	1.9	2.6	13.2
医療機関には行かず、 市販薬等で対応する	6.5	6.5	8.6	9.2	10.2	2.6	8.9
特に何もしない	0.0	1.6	0.3	0.3	1.3	0.0	0.8
病気やけがをしたことは無い	0.0	14.1	10.3	7.6	3.4	0.0	7.0
その他	0.0	1.1	1.5	2.0	2.7	2.6	2.0
実数 (人)	31	184	397	304	638	39	1,593

「日本語での会話はまったくできない」及び「名前や出身地など、簡単な自己紹介ができる」と回答した者は、「家族や知人に通訳として同行してもらう」が最も多く、それぞれ、67.7%、46.7%であった。「自分の家族や国などについて簡単な質問に答えることができる」、「買い物をするときに自分の希望や条件を詳しく説明できる」及び「公的施設や病院で、通訳なしでも問題なく意思疎通ができる」と回答した者は、「近所の医療機関に行く」が最も多く、それぞれ 48.1%、70.1%、88.7%であった。

問 23 6歳から15歳までのお子さんであなたと同居しているお子さんは何人いますか。
(単数回答)



* n=1,593

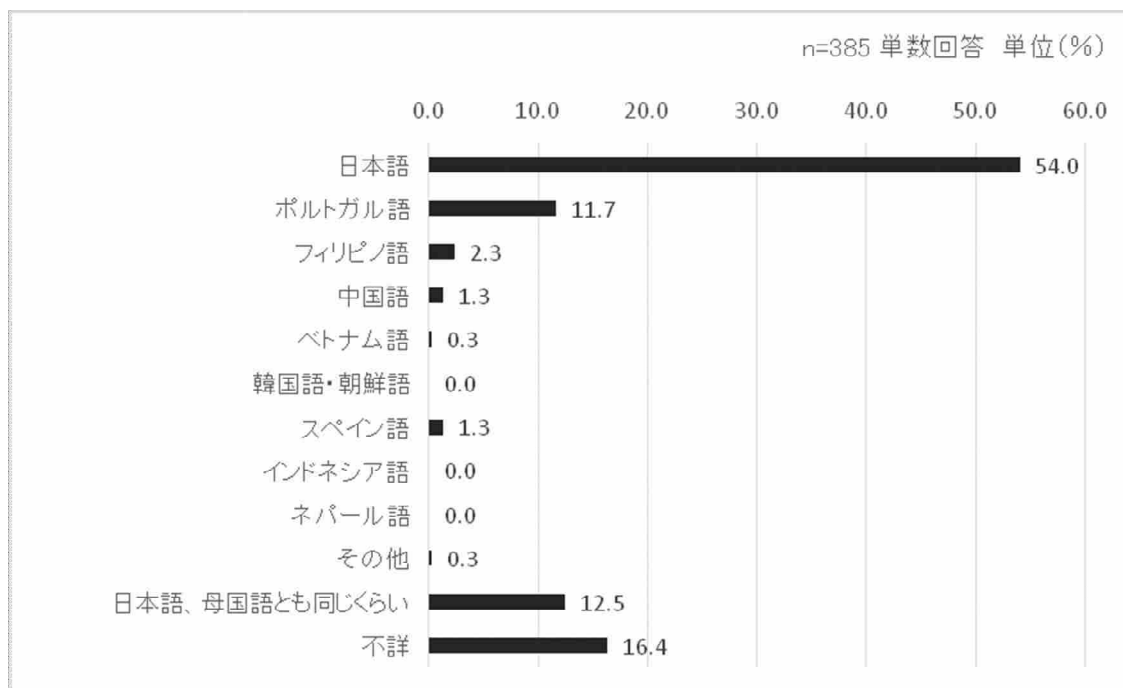
「該当する子どもがいない」が43.6%で最も多く、次いで「1人」が14.4%、「2人」が7.2%であった。

○親の年齢と6歳から15歳までの同居する子どもの人数との関係

	単数回答 単位 (%)						実数 (人)
	1人	2人	3人	4人以上	いない	不詳	
16-29	2.5	1.1	0.5	0.0	62.0	33.9	440
30-39	19.9	10.5	2.4	1.6	39.9	25.6	371
40-49	29.4	15.5	4.0	0.6	26.0	24.5	323
50+	11.6	4.6	1.7	0.0	42.6	39.5	413
不詳	4.3	2.2	0.0	4.3	28.3	60.9	46
実数 (人)	230	114	31	10	694	514	1,593

子どもがいると回答した者は、どの年代を見ても、「1人」が最も多くなっている。

問 24 同居している6歳から15歳までのお子さんのうち、一番上のお子さんが最もよく話せる言語は何ですか。（単数回答）



* n=385。

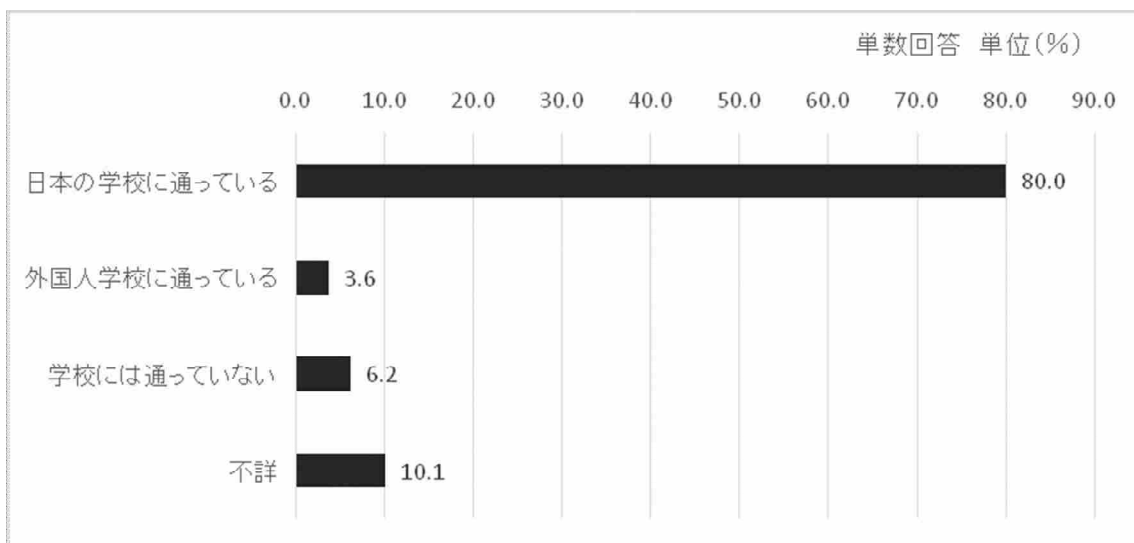
「日本語」が54.0%で最も多く、次いで「日本語、母国語とも同じくらい」が12.5%、「ポルトガル語」が11.7%であった。

○子どもが最もよく話せる言語と国籍の関係

	単数回答 単位 (%)										全体
	ブラジル	フィリピン	中国	ベトナム	韓国または朝鮮	ペルー	インドネシア	ネパール	二重国籍	不詳	
日本語 n=208	38.6	66.7	73.3	83.3	81.8	38.6	66.7	50.0	0.0	100.0	54.0
日本語・母国語とも同じくらい n=48	11.4	11.7	13.3	0.0	18.2	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
その他（不詳を含む） n=129	50.0	21.6	13.3	26.7	0.0	50.0	33.3	50.0	100.0	0.0	33.5
実数（人）	140	111	60	12	11	42	3	4	1	1	385

「日本語」が最も多いのは、ベトナム、韓国または朝鮮、中国、フィリピン、インドネシアで、それぞれ、83.3%、81.8%、73.3%、66.7%、66.7%であった。

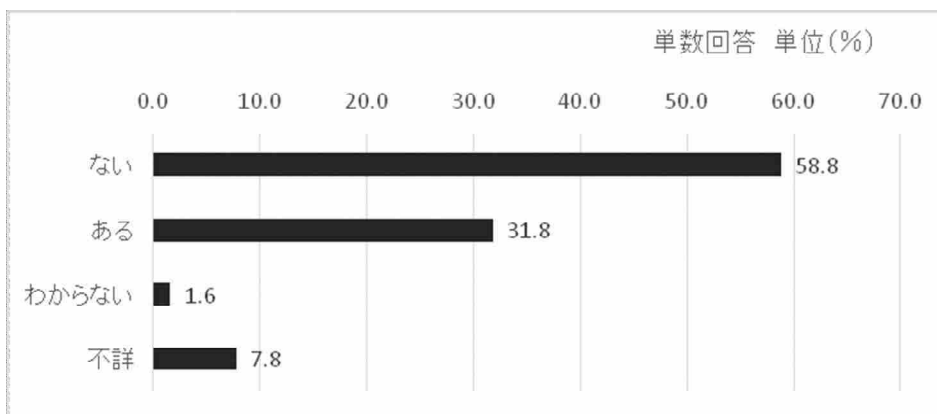
問 25 同居している6歳から15歳までのお子さんのうち、1番上のお子さんは現在、学校に通っていますか。(単数回答)



* n=385

「日本の学校に通っている」が80.0%と最も多く、次いで「学校には通っていない」が6.2%、「外国人学校に通っている」が3.6%であった。

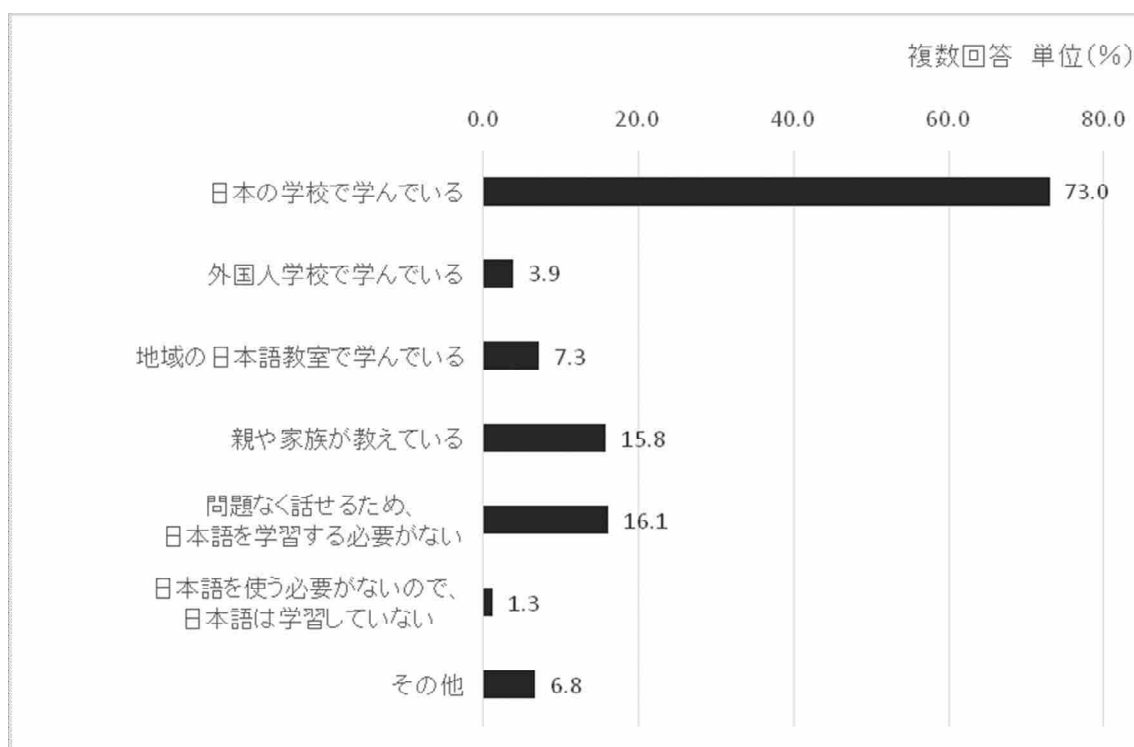
問 26 問 25 で「1 日本の学校に通っている」と回答した方は、子どもの学力に心配がありますか。(単数回答)



* n=308

「子どもの学力に心配はない」が58.8%と最も多い。

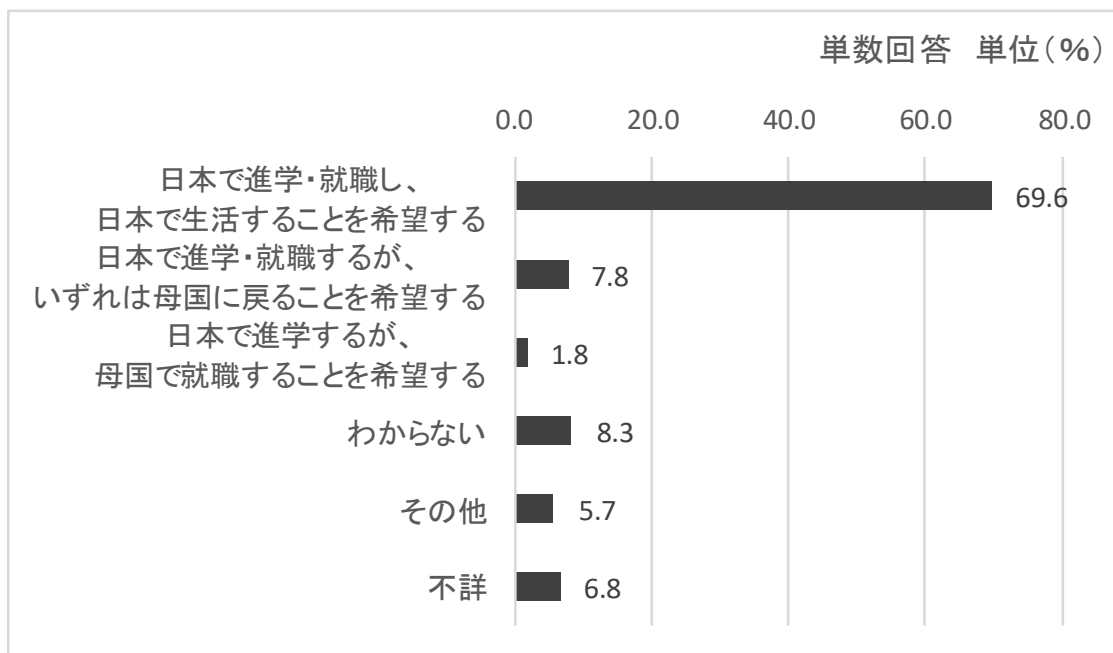
問 27 同居している6歳から15歳までのお子さんのうち、1番上のお子さんはどのように日本語の学習をしていますか。(複数回答)



* n=385

「日本の学校で学んでいる」73.0%が最も多く、次いで「問題なく話せるため、日本語学習する必要がない」が16.1%、「親や家族が教えている」が15.8%であった。

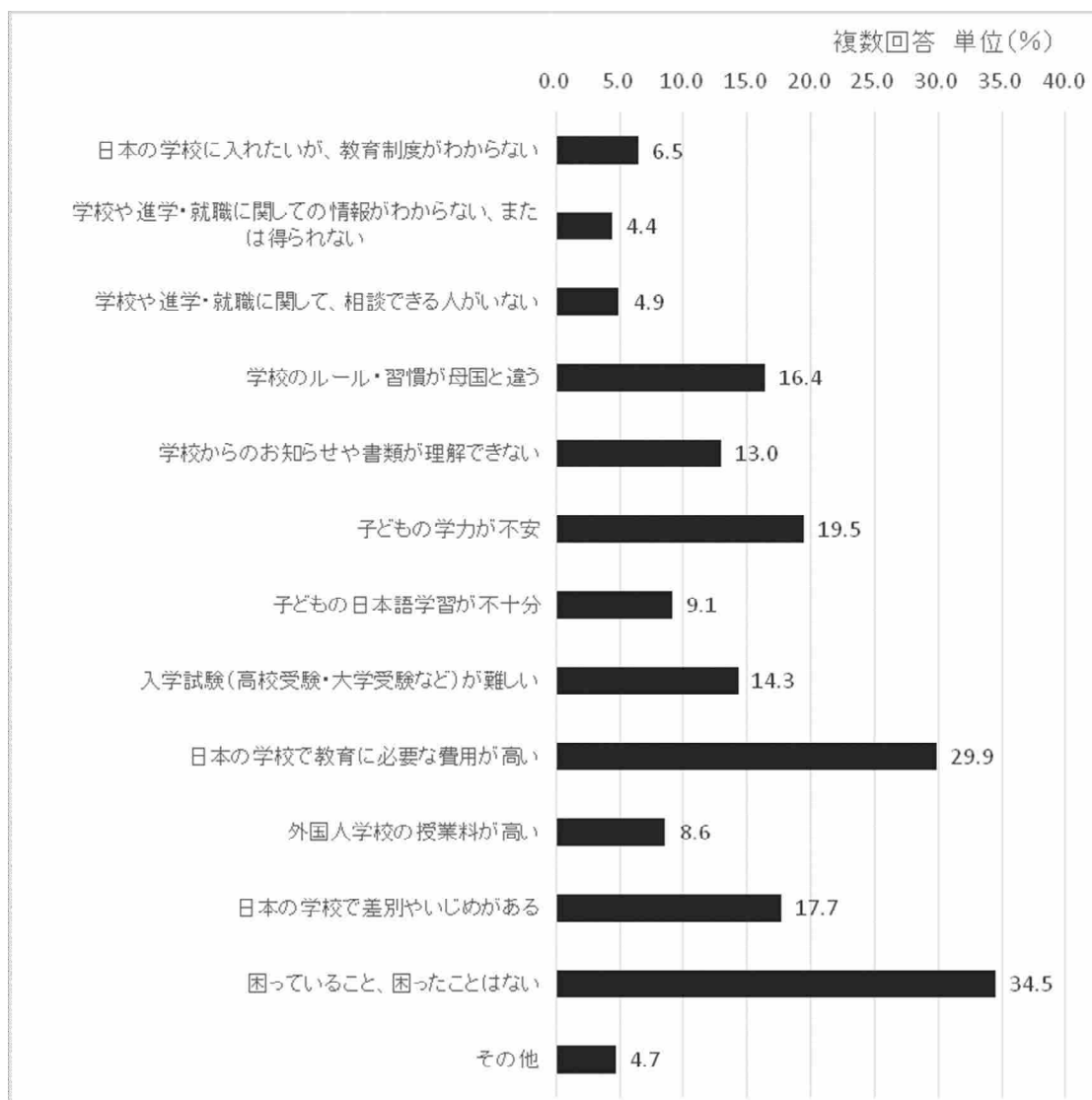
問 28 お子さんの将来についてどのように考えていますか。(単数回答)



* n=385

「日本で進学・就職し、日本で生活することを希望する」が 69.6%で最も多く、次いで「わからない」が 8.3%、「日本で進学・就職するが、いずれは母国に戻ることを希望する」が 7.8%であった。

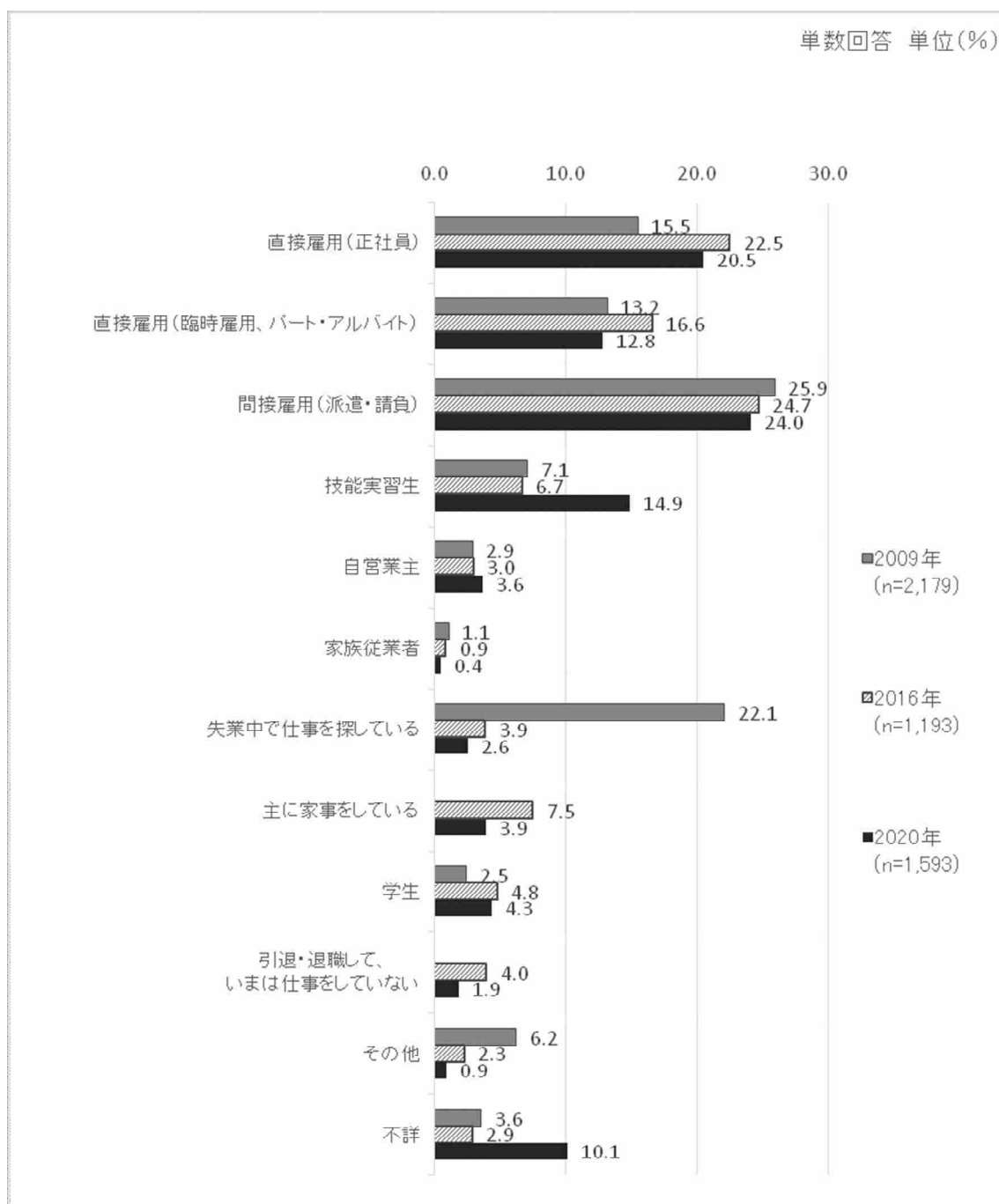
問 29 お子さんの教育について、困っていること、困った経験をしたことはありますか。
(複数回答)



* n=1,593

「困っていること、困ったことはない」が 34.5%で最も多く、次いで「日本の学校で教育に必要な費用が高い」が 29.9%、「子どもの学力が不安」が 19.5%であった。

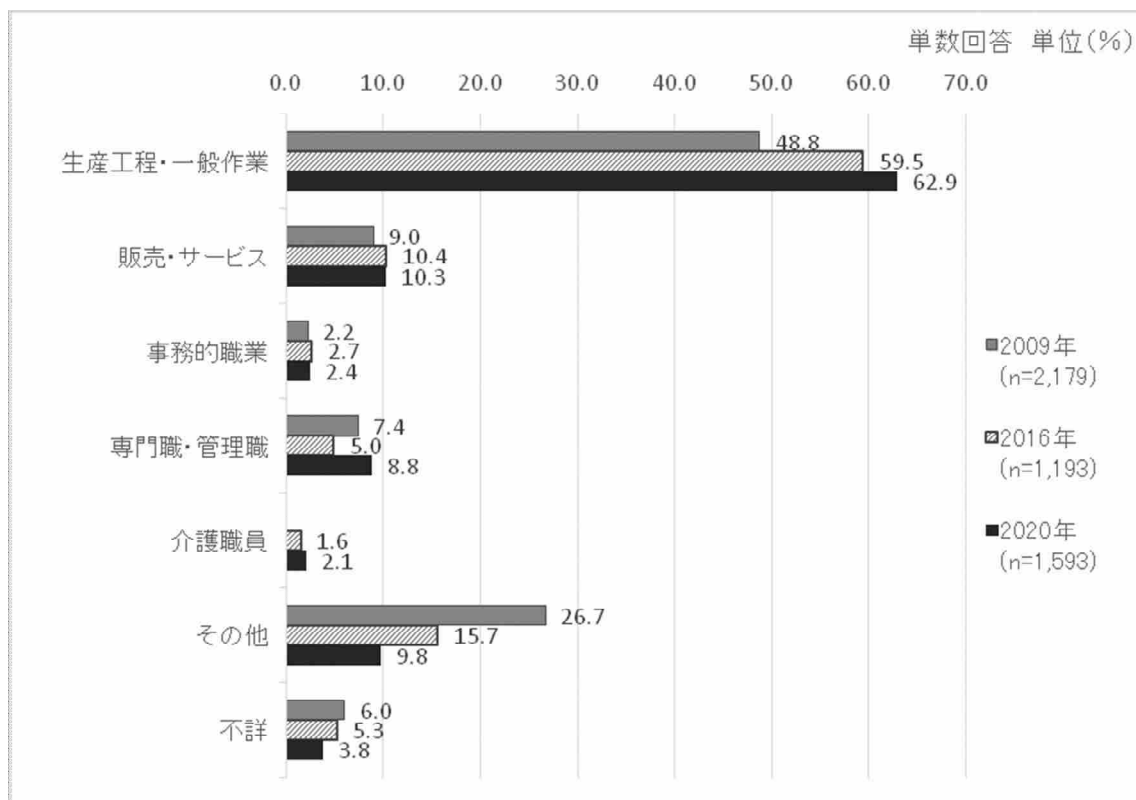
問 30 あなたの現在の仕事は大きく分けてこの中のどれにあたりますか。複数の仕事を持つ人は、主な仕事について教えてください。（単数回答）



2020年調査では、「間接（派遣・請負）」が24.0%で最も多く、次いで「直接雇用（正社員）」が20.5%、「技能実習生」が14.9%であった。

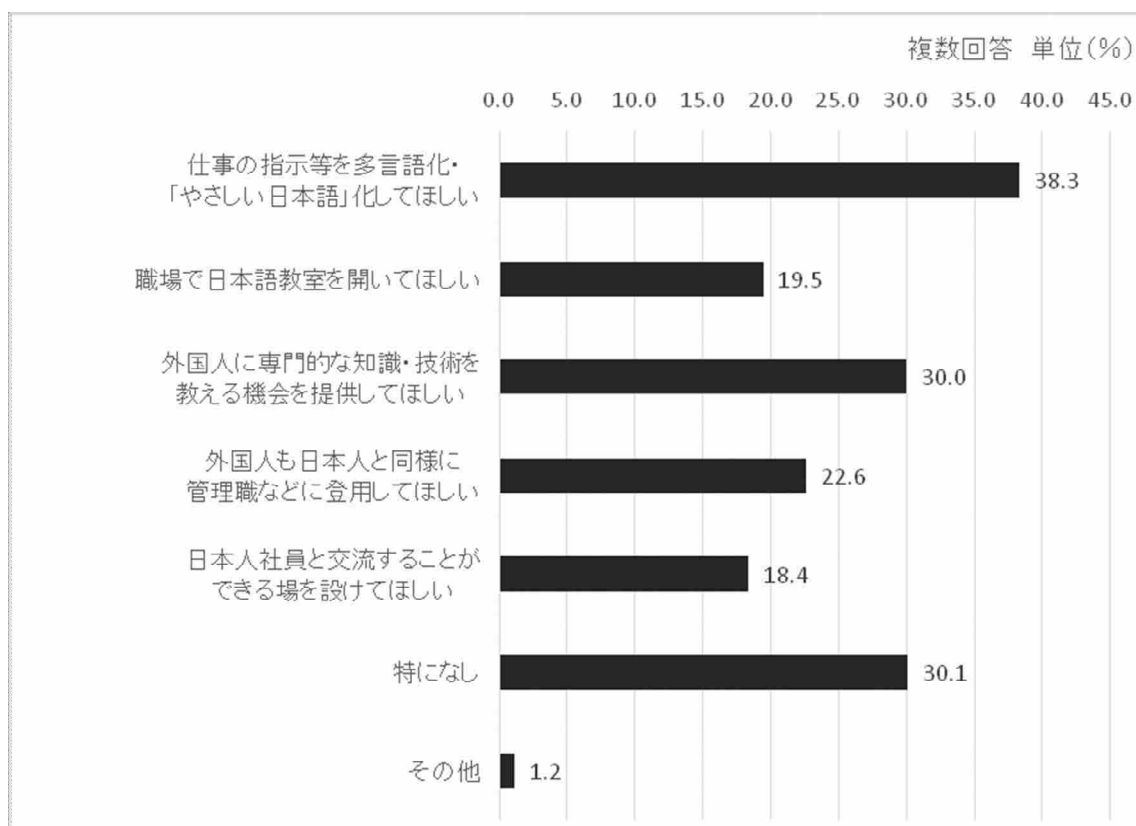
2009年調査、2016年調査、2020年調査の経年的変化をみると、技能実習生は、2009年調査・2016年調査では、それぞれ7.1%、6.7%であったが、2020年調査では14.9%に上昇している。

問 31 あなたの現在の仕事はどのような内容ですか。（単数回答）



2020年調査では、「生産工程・一般作業（製造、修理、輸送、建設、土木などの労働者）」が62.9%で最も多く、次いで「販売・サービス（店員、セールスマン、接客など）」が10.3%、「専門職・管理職（エンジニア、看護師、教員、通訳、管理職など）」が8.8%であった。

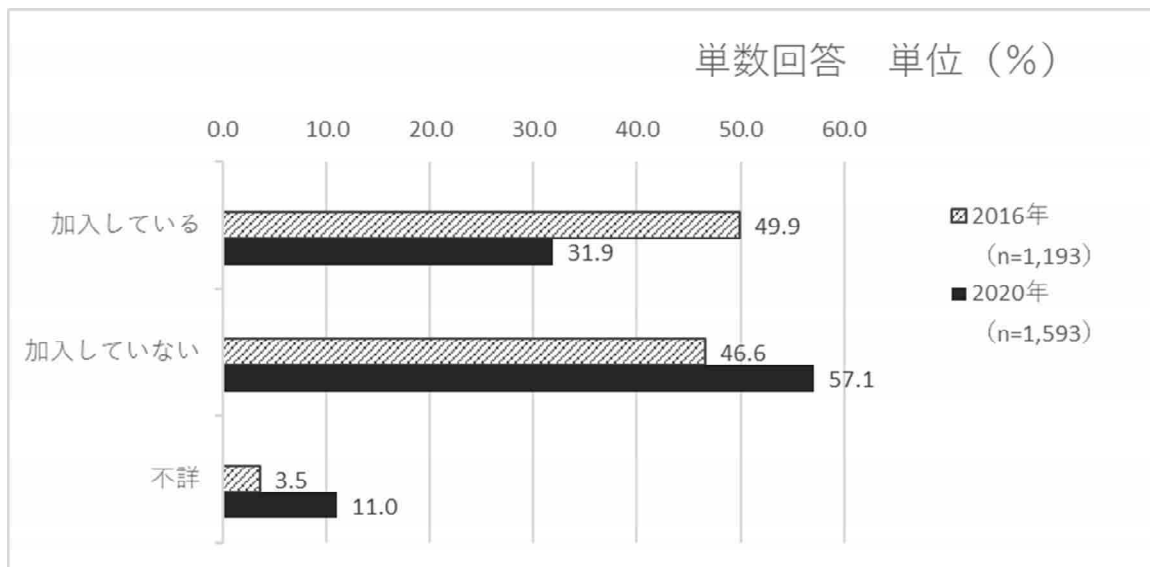
問 32 あなたが、職場でより活躍するためにはどのようなことを希望しますか。
(複数回答)



* n=1,593

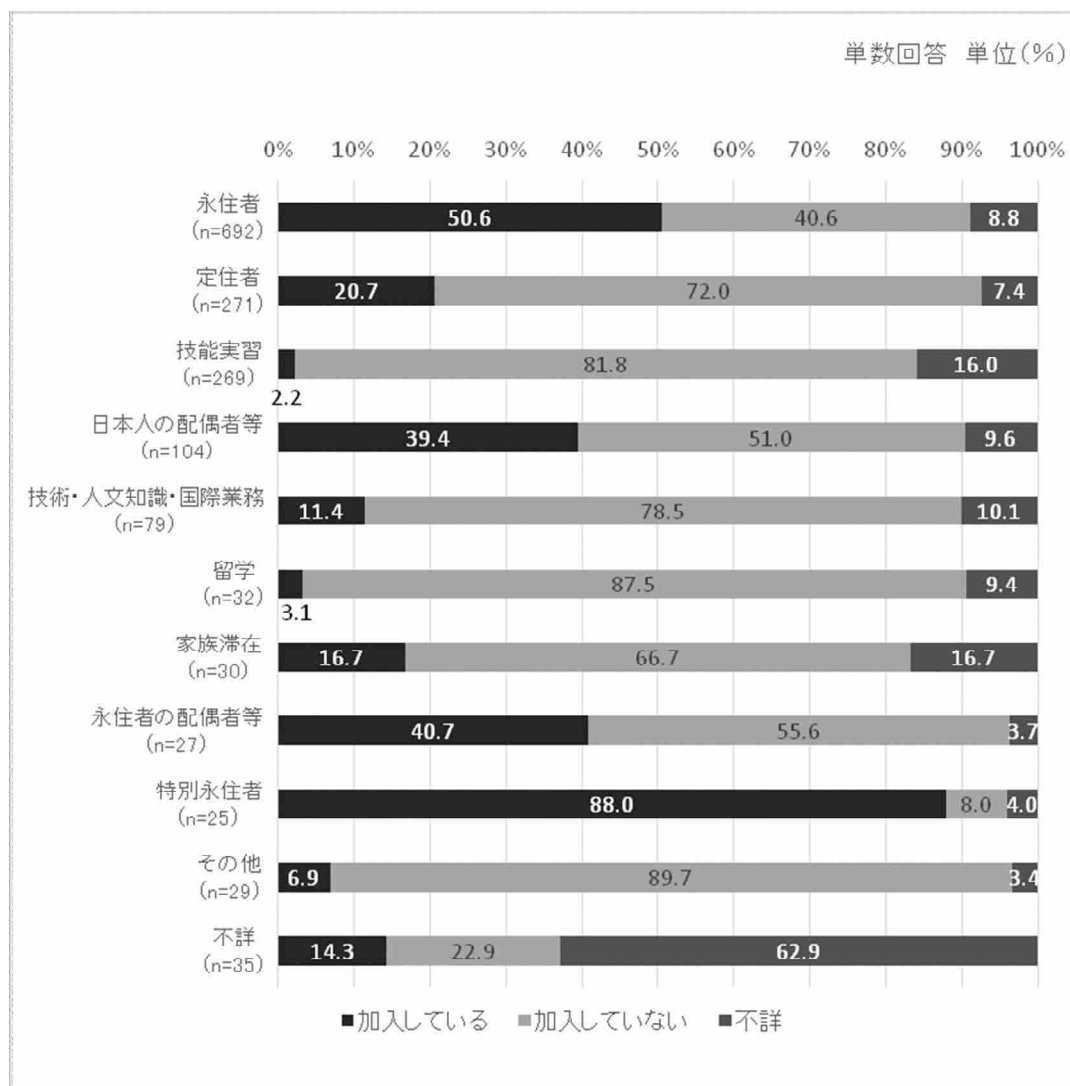
「仕事の指示等を多言語化・『やさしい日本語』化してほしい」が38.3%で最も多く、次いで「特になし」が30.1%、「外国人に専門的な知識・技術を教える機会を提供してほしい」が30.0%であった。

問 33 あなた(あなたの家族)は自治会に加入していますか。(単数回答)



2020年調査では、「加入している」が31.9%となっており、2016年調査の49.9%から18.0ポイント減少している。

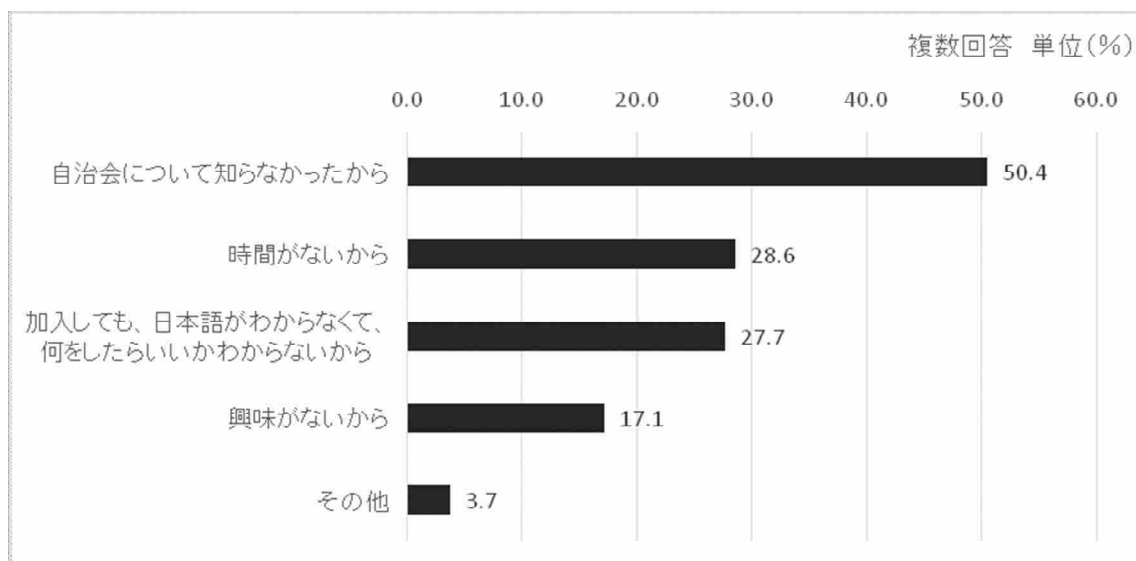
○2020年調査における在留資格と自治会参加の関係



「特別永住者」の加入率が88.0%で最も高く、次いで「永住者」の50.6%、「永住者の配偶者等」の40.7%であった。

加入率が低い在留資格は、「技能実習」の2.2%、「留学」の3.1%であった。

問 33-2 問 33 で、「2 加入していない」と答えた方にお伺いします。加入していない理由は何ですか。（複数回答）

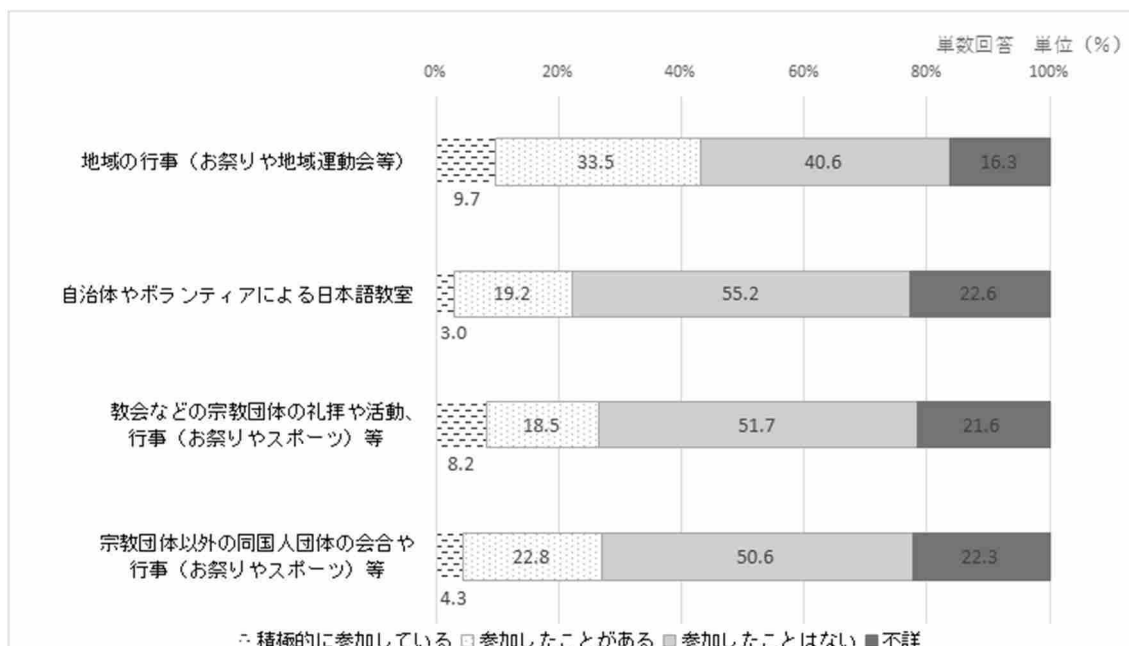


* n=910

「自治会について知らなかったから」が 50.4%で最も多く、次いで「時間がないから」が 28.6%、「加入しても、日本語がわからなくて、何をしたらいいかわからないから」が 27.7%であった。

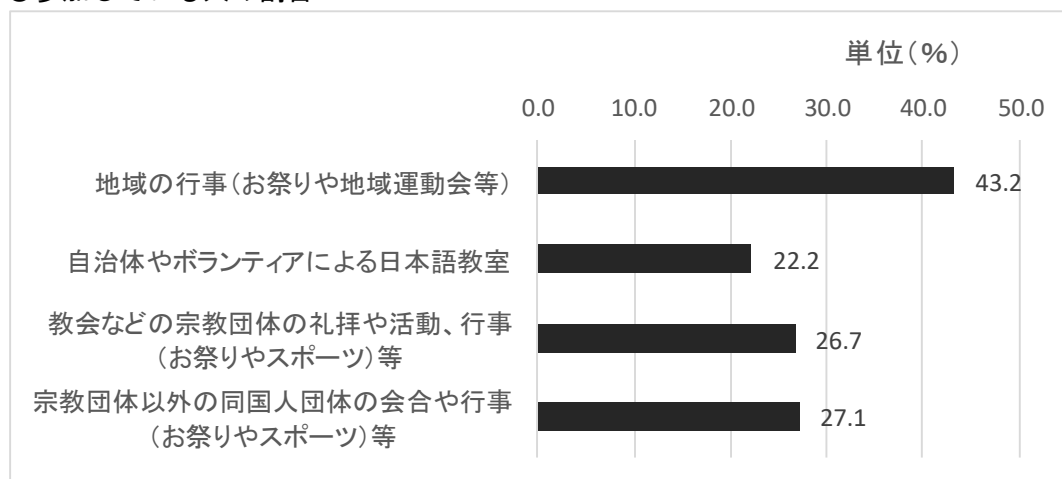
問 34 あなたは以下に挙げる団体や行事に参加したことがありますか。

A～D のそれぞれについて、教えてください。



いずれの項目についても「参加したことはない」が最も多い。「積極的に参加している」との回答が最も多かったのは「地域の行事（お祭りや地域運動会等）」で9.7%、次いで「教会など宗教団体の礼拝や活動、行事（お祭りやスポーツ等）」が8.2%であった。

○参加している人の割合



それぞれの項目について、「積極的に参加している」又は「参加したことがある」と回答した者を「参加経験あり」とすると、「地域の行事」が43.2%で最も多く、次いで「宗教団体以外の同国人団体の会合や行事」が27.1%、「教会などの宗教団体の礼拝や活動、行事」が26.7%であった。

○2020 年度調査における団体や行事への参加状況と日本語の会話能力との関係

A. 地域の行事（お祭りや地域運動会等）

	日本語での 会話はまっ たくできな い	名前や出身 地など、簡 単な自己紹 介ができる	自分の家族 や国などに ついて簡単 な質問に答 えることが できる	買い物をす るときに自 分の希望や 条件を詳し く説明でき る	公的施設や 病院で、通 訳なしでも 問題なく意 志疎通がで きる	単数回答 単位 (%)	
						不詳	全体
積極的に参加している	6.5	3.3	6.3	8.6	14.3	10.3	9.7
参加したことがある	32.3	26.1	25.2	32.2	43.1	7.7	33.5
参加したことはない	48.4	54.9	52.4	42.1	29.8	10.3	40.6
不詳	12.9	15.8	16.1	17.1	12.9	71.8	16.3
実数（人）	31	184	397	304	638	39	1,593

「参加経験あり」について見ると、「公的施設や病院で、通訳なしでも問題なく意思疎通ができる」が57.4%で最も多く、次いで「買い物をするとき自分の希望や条件を詳しく説明できる」が40.8%、「日本語での会話はまったくできない」が38.8%であった。

B. 自治体やボランティアによる日本語教室

	日本語での 会話はまっ たくできな い	名前や出身 地など、簡 単な自己紹 介ができる	自分の家族 や国などに ついて簡単 な質問に答 えることが できる	買い物をす るときに自 分の希望や 条件を詳し く説明でき る	公的施設や 病院で、通 訳なしでも 問題なく意 志疎通がで きる	単数回答 単位 (%)	
						不詳	全体
積極的に参加している	0.0	3.8	3.5	3.9	2.0	5.1	3.0
参加したことがある	16.1	16.8	20.9	23.4	17.9	5.1	19.2
参加したことはない	58.1	58.7	57.4	49.3	58.0	12.8	55.2
不詳	25.8	20.7	18.1	23.4	22.1	76.9	22.6
実数（人）	31	184	397	304	638	39	1,593

「参加経験あり」について見ると、「買い物をするとき自分の希望や条件を詳しく説明できる」が27.3%と最も多く、次いで「自分の家族や国などについて簡単な質問に答えることができる」が24.4%、「名前や出身国など、簡単な自己紹介ができる」が20.6%であった。

C. 教会などの宗教団体の礼拝や活動、行事（お祭りやスポーツ）等

	日本語での 会話はまっ たくできな い	名前や出身 地など、簡 単な自己紹 介ができる	自分の家族 や国などに ついて簡単 な質問に答 えることが できる	買い物をす るときに自 分の希望や 条件を詳しく説明できる	公的施設や 病院で、通 訳なしでも 問題なく意 志疎通がで きる	単数回答 単位 (%)	
						不詳	全体
積極的に参加している	3.2	10.3	7.3	8.2	8.8	2.6	8.2
参加したことがある	12.9	12.5	17.6	23.0	19.1	12.8	18.5
参加したことはない	61.3	58.7	56.4	48.4	50.6	7.7	51.7
不詳	22.6	18.5	18.6	20.4	21.5	76.9	21.6
実数（人）	31	184	397	304	638	39	1,593

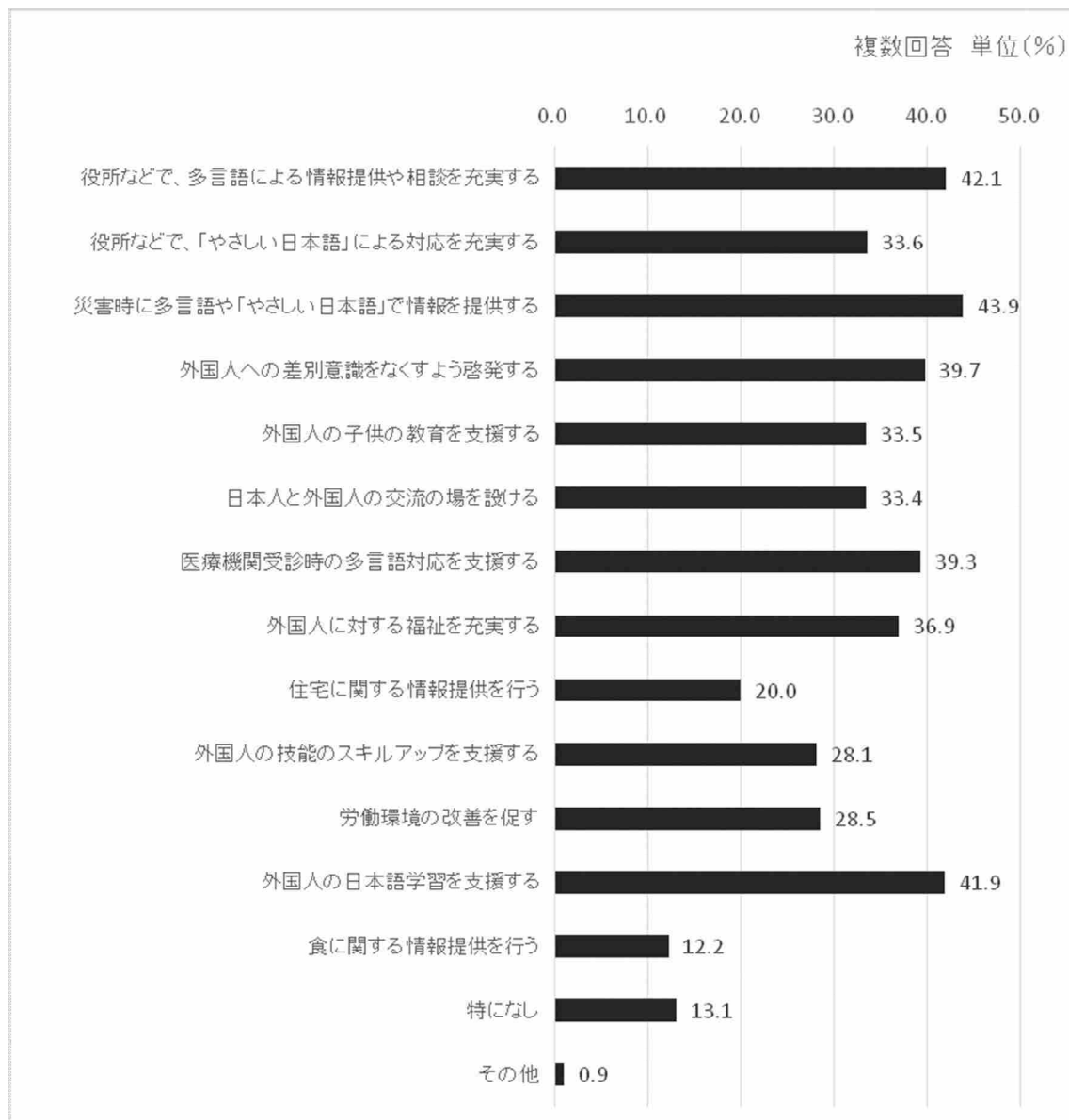
「参加経験あり」について見ると、「買い物をするとき自分の希望や条件を詳しく説明できる」が31.2%で最も多く、次いで「公的施設や病院で、通訳なしでも問題なく意思疎通ができる」が27.9%、「自分の家族や国などについて簡単な質問に答えることができる」が24.9%であった。

D. 宗教団体以外の同国人団体の会合や行事（お祭りやスポーツ）等

	日本語での 会話はまっ たくできな い	名前や出身 地など、簡 単な自己紹 介ができる	自分の家族 や国などに ついて簡単 な質問に答 えることが できる	買い物をす るときに自 分の希望や 条件を詳しく説明できる	公的施設や 病院で、通 訳なしでも 問題なく意 志疎通がで きる	単数回答 単位 (%)	
						不詳	全体
積極的に参加している	0.0	3.8	3.8	7.2	3.8	2.6	4.3
参加したことがある	19.4	21.7	21.4	24.0	24.3	10.3	22.8
参加したことはない	61.3	54.9	55.4	46.1	50.5	10.3	50.6
不詳	19.4	19.6	19.4	22.7	21.5	76.9	22.3
実数（人）	31	184	397	304	638	39	1,593

「参加経験あり」について見ると、「買い物をするとき自分の希望や条件を詳しく説明できる」が31.2%で最も多く、次いで「公的施設や病院で、通訳なしでも問題なく意思疎通ができる」が28.1%、「名前や出身国など、簡単な自己紹介ができる」が25.5%であった。

問 35 市役所や県に対してどのような行政サービスを望みますか。（複数回答）



「災害時に多言語や「やさしい日本語」で情報を提供する」が 43.9%で最も多く、次いで「役所などで、多言語による情報提供や相談を充実する」が 42.1%、「外国人の日本語学習を支援する」が 41.9%であった。

○市役所や県に望む行政サービスの経年的変化

<2009年調査と2016年度調査の比較>

